

Leader

Ver. 1.1

LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル



目次

本体

パネル面	2
背面パネル	3

基本設定

測定画面	5
INPUT設定	6
一般的な設定測定（その１）	7
一般的な設定測定（その２）	8
ファンクション操作	9
クイックマニュアル使用時の設定	10

測定モード

波形表示（その１）	11
波形表示（その２）	12
ベクトルスコープ表示（その１）	13
ベクトルスコープ表示（その２）	14
ベクトルスコープ表示（その３）	15
（UHDTV/HLG カラーバー対応）	
CIE色度図表示	16
5BARガマット表示	17
ピクチャー表示	18
シネライト（%表示）	19
シネゾーン	20
フォーカスアシスト	21
HDR表示（その１）	22
HDR表示（その２）	23
AUDIO	24

STATUS	25
Payload ID/SRLive Metadata表示	26
イベントログ	27
位相差測定	28
AV PHASE（リップ シンク）	29
EYE	30

マルチ表示

レイアウト呼出（S I N G L E設定）	31
レイアウト呼出（S I M U L設定）	32

その他

スクリーンキャプチャー	33
信号出力設定	34
イニシャライズ	34
プリセット登録／削除	35
プリセット呼出	35

レイアウト

レイアウト変更－基本－	36
レイアウト変更（概要）－基本例－	37
レイアウト変更（手順）－基本例－	38
レイアウト変更（概要）－応用例1－	39
レイアウト変更（手順）－応用例1－	40
レイアウト変更（概要）－応用例2－	41
レイアウト変更（手順）－応用例2－	42

オペレーションキー	43
-----------	----

このクイックマニュアルは本体ファームウェアVer 4.0以上が必要です。
それより低いバージョンの場合は、WEBのダウンロードから最新のファームウェアを、ダウンロードしてインストールして
ご使用下さい。

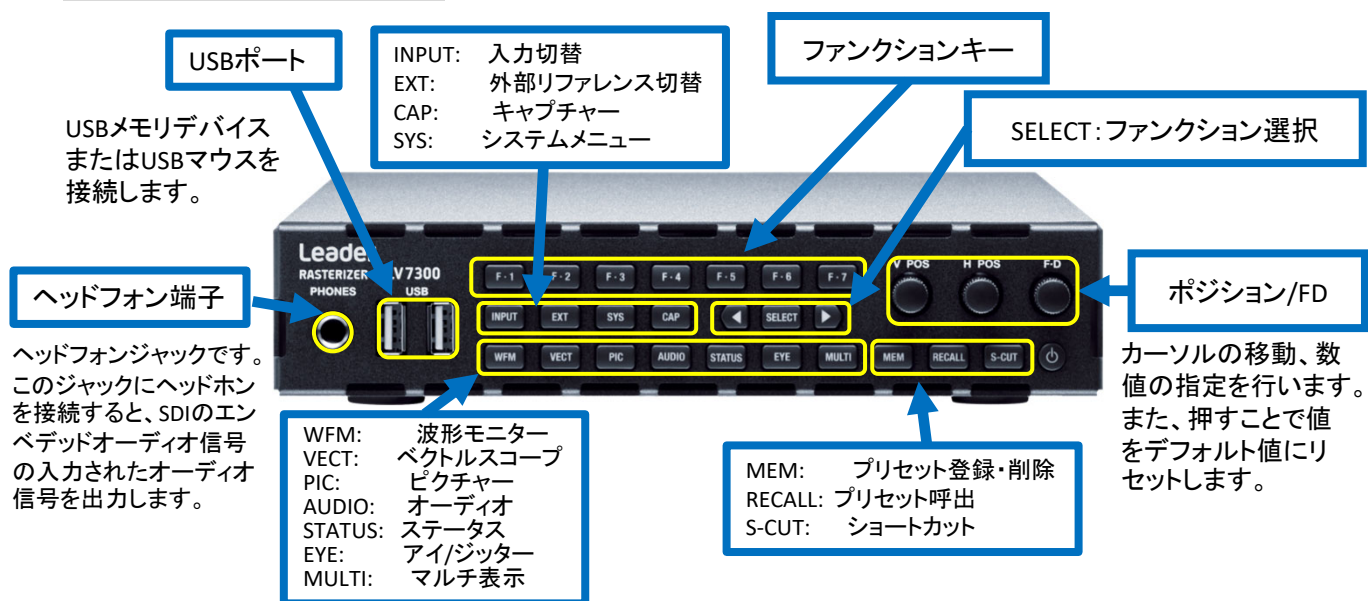
Leader

LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル

LV5300/LV5350 パネル面



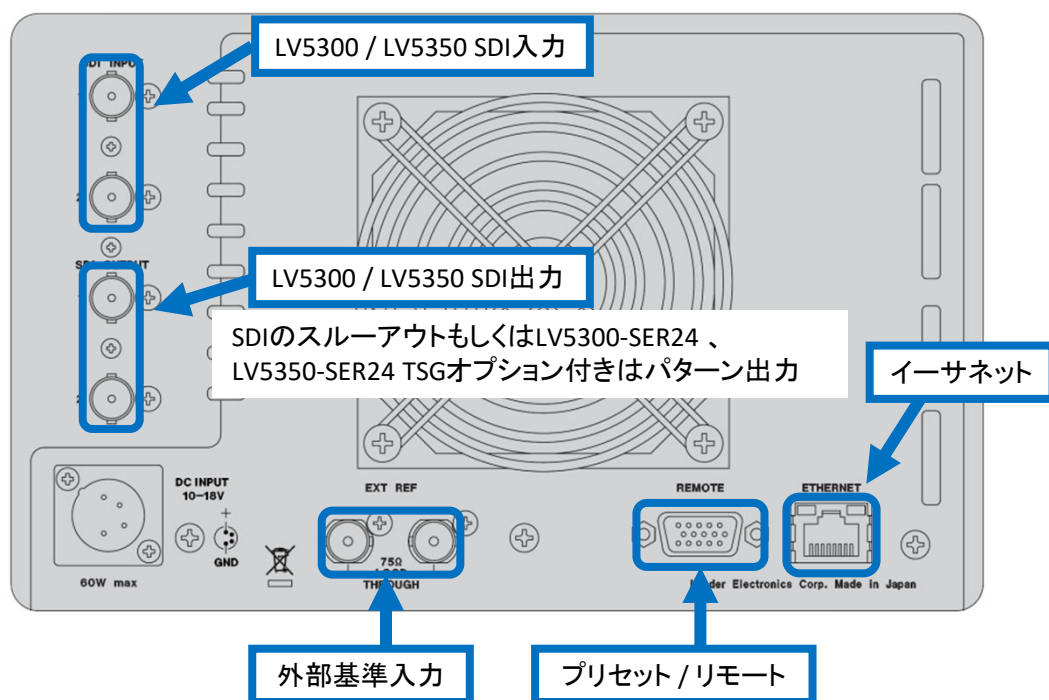
LV7300 パネル面



Leader

LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル

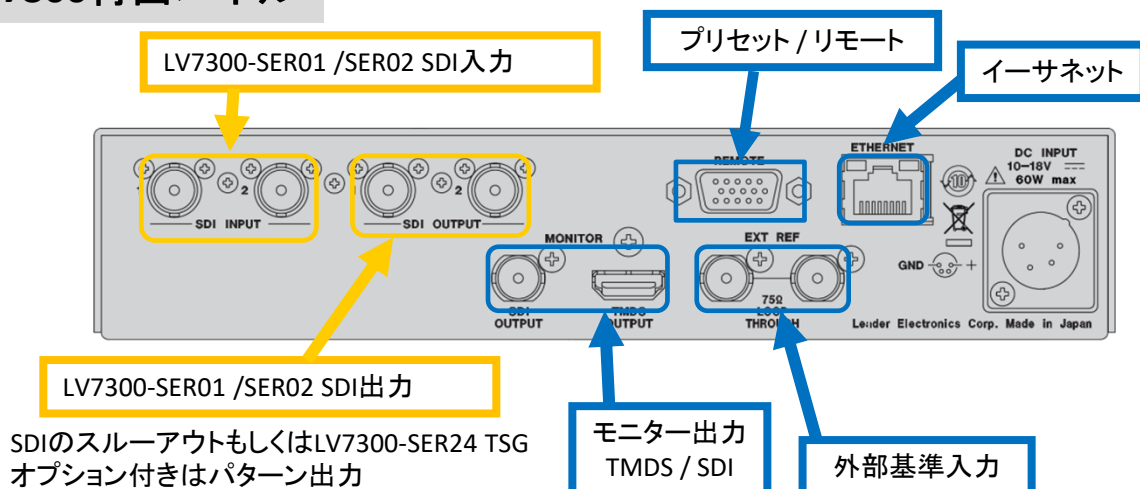
LV5300/LV5350背面パネル



標準装備

オプション

LV7300背面パネル

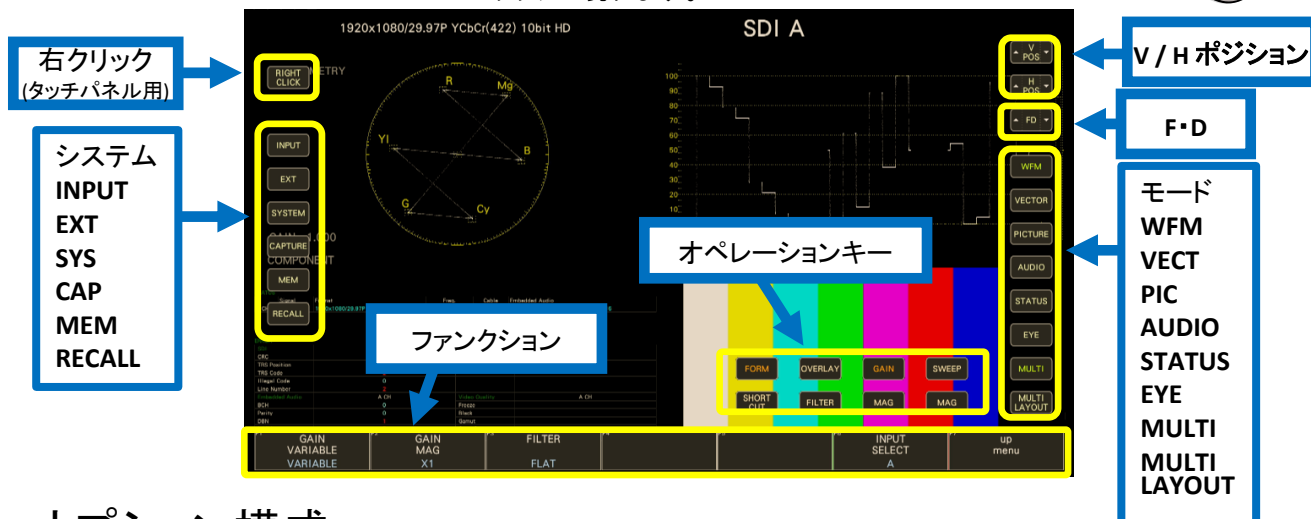


Leader

LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル

操作アイコン

マウスを接続もしくはタッチパネルにて次のアイコンの操作が可能です。マウスの左クリックもしくはタッチパネルのタッチで現れます。



オプション構成

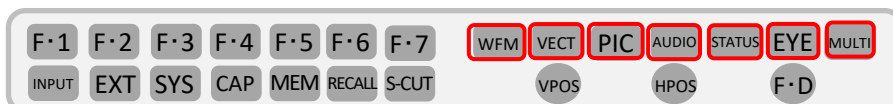
- LV5300/LV5350 工場オプションユニット(別売品)
 - LV5300-SER11/LV5350-SER11 Vマウントタイプバッテリーアダプター
 - LV5300-SER12/LV5350-SER12 QRゴールドマウントタイプバッテリーアダプター
- LV5300/LV5350 ライセンス(別売品)
 - LV5300-SER20/LV5350-SER20 AUDIO表示機能
 - LV5300-SER21/LV5350-SER21 日本語字幕、EIA-608,708/TELETEXT
 - LV5300-SER22/LV5350-SER22 CIE色度図表示機能
 - LV5300-SER23/LV5350-SER23 HDR測定機能
 - LV5300-SER24/LV5350-SER24 SDI 信号発生機能
 - LV5300-SER25/LV5350-SER25 フォーカスアシスト機能
 - LV5300-SER26/LV5350-SER26 カスタムドレイアウト機能
 - LV5300-SER27/LV5350-SER27 ID/アイリス/タリー表示機能
 - LV5300-SER28/LV5350-SER28 4K 映像信号対応(12G-SDI)機能
- LV7300 工場オプションユニット(別売品)
 - LV7300-SER01 SDI 入力
 - LV7300-SER02 アイパターン付SDI 入力

※LV7300-SER01もしくはLV7300-SER02のどちらかの選択オプションです。
- LV7300 ライセンス(別売品)
 - LV7300-SER20 AUDIO表示機能
 - LV7300-SER21 日本語字幕、EIA-608,708/TELETEXT
 - LV7300-SER22 CIE色度図表示機能
 - LV7300-SER23 HDR測定機能
 - LV7300-SER24 SDI 信号発生機能
 - LV7300-SER25 フォーカスアシスト機能
 - LV7300-SER26 カスタムドレイアウト機能
 - LV7300-SER27 ID/アイリス/タリー表示機能
 - LV7300-SER28 4K 映像信号対応(12G-SDI)機能

Leader

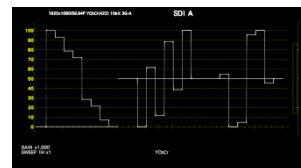
LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル

測定画面



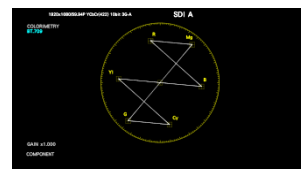
WFM ビデオ信号波形表示

ビデオ信号波形が表示されます。選択したラインの波形を表示するラインセレクト表示、YCbCr表示、RGB表示、疑似コンポジット表示などができます。



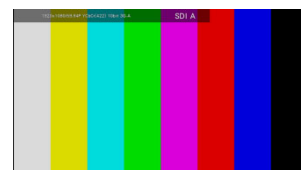
VECT ベクトル波形表示

ベクトル波形が表示されます。ラインセレクト表示、ベクトルマーカ表示、疑似コンポジット表示、CIE色度図表示(LV5300-SER22、LV5350-SER22、LV7300-SER22)などができます。



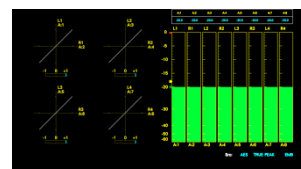
PIC ピクチャー表示

ピクチャーが表示されます。モノクロ表示、マーカ表示、ラインセレクト表示、CINE LITE II、フォーカスアシスト表示(LV5300-SER25、LV5350-SER25、LV7300-SER25)などができます。



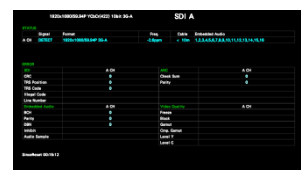
AUDIO オーディオ表示 (LV5300-SER20、LV5350-SER20、LV7300-SER20)

オーディオが表示されます。選択した信号の、リサージュ表示、サラウンド表示、メーター表示、ステータス表示などができます。(LV5300-SER20、LV5350-SER20、LV7300-SER20が実装されていない時、メーター表示のみでその他の機能は無効です)



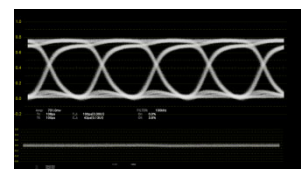
STATUS ステータス表示

STATUS キーを押すと、ステータスが表示されます。イベントログ表示やデータダンプ表示、位相差表示などができます。



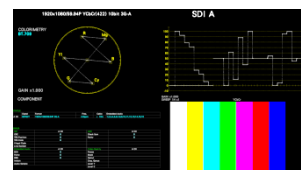
EYE アイパターン表示 (LV5300、LV7300-SER02)

アイパターンが表示されます。(LV5350またはLV7300-SER02が実装されていないとき、EYE キーは無効です) モード切替によって、アイパターンのほかにジッタも表示できます。



MULTI マルチ表示

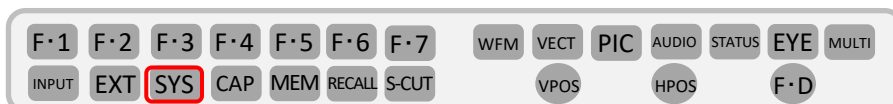
各測定画面を組み合わせたマルチ画面が表示されます。レイアウトを切り換えることで、6種類のレイアウトを選択できます。



Leader

LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル

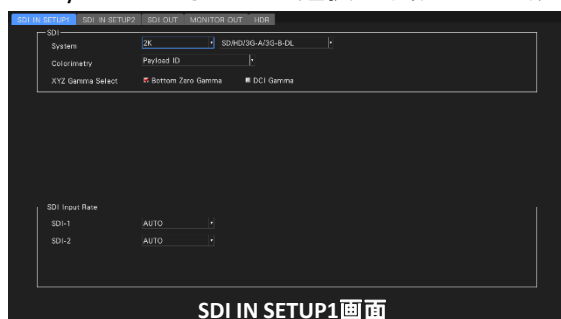
INPUT設定



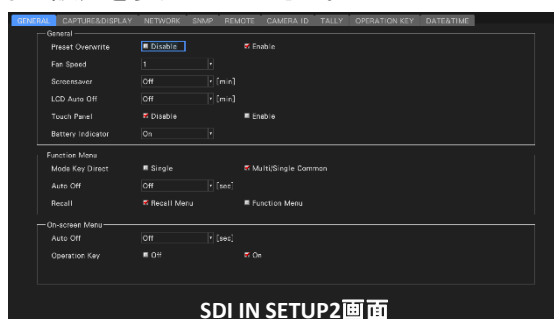
SYS (SYSTEM) > F.1 (SIGNAL IN OUT)

F.2 (PREV TAB)、F.3 (NEXT TAB)で **SDI IN SETUP1** または **SDI IN SETUP2** を選択します。

各項目を入力信号に合わせて設定します。設定はF.Dを押してチェックマークを入れるまたは、F.Dを押してから回すことで設定項目の選択を行った後に押すことで項目を確定します。設定の最後にF.1 (COMPLETE)を押してシステムの確定保存します。SDI Systemのフォーマット選択は取説の6.2 測定信号の設定を参照してください。



SDI IN SETUP1画面



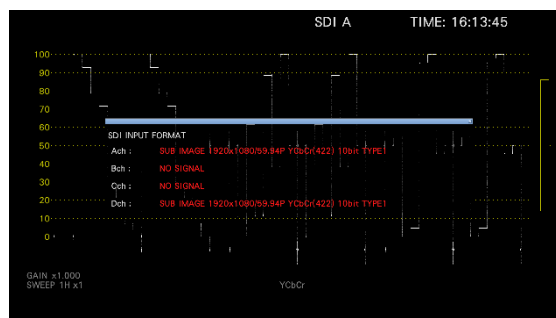
SDI IN SETUP2画面

入力フォーマットのエラー表示

SYSメニューの **SDI IN SETUP1** で設定した内容に対して、適切なフォーマットが入力されない、フォーマットを赤色で表示したり、画面中央にINPUT FORMATウインドウを表示したりします。このときは **SDI IN SETUP1** の設定、入力信号、ペイロードIDを再確認してください。

フォーマットは、以下のときなどに赤色で表示します。

- ・ SDI入力: 4K 12G設定時に入力信号が3G、HD、SDフォーマットの時
- ・ ペイロードIDが適切ではないとき



補足: ペイロードIDについて

LV5300/LV5350/LV7300では入力信号のSYNCなどを解析してフォーマット情報などを判断しますが、入力信号で判断ができない項目はペイロードIDで判断します。入力信号のペイロードIDまたは **SDI IN SETUP2** 上で設定したペイロードIDのどちらかを指定することが可能です。(**SDI IN SETUP2** のPayload ID項目のUSE / Not USE で設定できます。) LV5300/LV5350/LV7300で設定できるペイロードIDは下記の項目です。

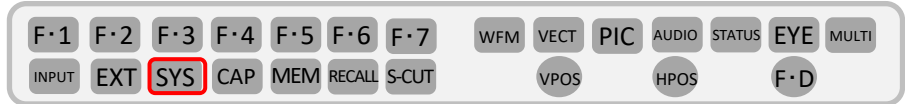
(Payload ID Not USE or Missing項目)

Division	: Square / 2 Sample Interleave
i/PsF Slect	: Interlace / Segmented Frame (PsF)
Color System	: YCbCr422 / YCbCr444 / RGB444 / XYZ444
Pixel Depth	: 10bit / 12bit

注意: SDI System の設定により設定できなくなる項目があります。

LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル

一般的な設定(その1)



SYS (SYSTEM) > F·2 (SYSTEM SETUP) の GENERAL 上で下記の設定ができます。(F·2 (PREV TAB) または

F・3 (NEXT TAB)で表示タブの変更ができます。)

設定は F・D を回し、青枠を設定したい項目に合わせて F・D を押すとチェックマークまたは、項目選択が出来ます。設定が完了したら、F・1 (COMPLETE) で設定を確定させます。(項目選択の場合は、選択した後に F・D を押してから、F・1 (COMPLETE) で設定を確定させます。)

GENERAL

- Preset Overwrite

プリセット登録をするときに、上書きを有効にするかどうか選択します。無効にすることによってプリセットの上書きを防ぐことができます。

Disable / Enable

● Fan Speed

ファンの回転速度を選択します。数値が大きいほど速く回転します。

LV5300、LV7300-SER02実装の時: 4 / 5 / 6 / 7 / 8

LV5350、LV7300-SER01実装の時: 1 / 2 / 3 / 4 / 5 / 6 / 7 / 8

- Screensaver

最終キー操作からスクリーンセーバーが起動するまでの時間を選択します。
Off / 1 / 5 / 10 / 20 / 30 / 60 [min]

●LCD Auto Off

最終キー操作から自動でバックライトが消灯するまでの時間を選択します。
Off / 5 / 30 / 60 [min]

Off / 5 / 30 / 60 [min]

- Touch Panel

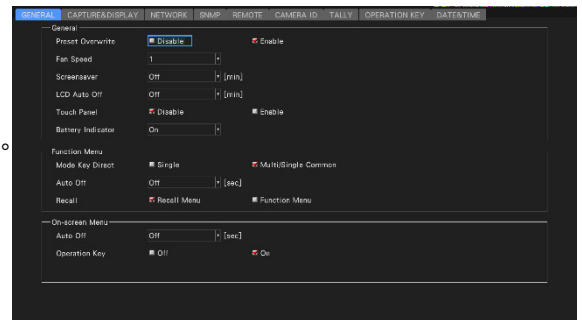
タッチパネル機能を有効にするかどうか選択します。

Disable / Enable

● Battery Indicator (LV5300-SER11/SER12、LV5350-SER11/SER12)

SER11またはSER12が実装されているとき、バッテリーの残量を表示します。
Off / On

Off / On



Function Menu

● Mode Key Direct

マルチ表示のとき、モードキー(WFM、VECT、PIC、AUDIO、STATUS、EYE)の操作によって測定画面の切り換えをするかしないか選択します。
(レイアウトでINPUT アイテムまたはInput オプションを配置しているときに有効です。)

Single: モードキーを操作すると、ファンクションメニューと測定画面が切り換わります。

Multi/Single Common: モードキーを操作すると、ファンクションメニューだけが切り換わり、測定画面はマルチ表示のままになります。
マルチ表示でファンクションメニューを表示するには、MULTIキーを2秒程度長押しします。

マルチ表示でファンクションメニューを表示するには、MULTIキーを2秒程度長押しします。

● Auto Off

最終キー操作から自動でファンクションメニューが消えるまでの時間を設定します。

Off / 1 / 2 / 3 / 4 / 5 / 10 / 20 / 30 / 60 [sec]

- Recall

プリセットの呼び出し時に表示するメニューを選択します。

Recall Menu: Recallメニューを表示します。

Function Menu: 測定メニューを表示します。

On-screen Menu

●Auto Off

マウス／タッチパネル操作で使用する画面上のキー表示で、最終キー操作から自動でキー表示が消えるまでの時間を設定します。

Off / 1 / 2 / 3 / 4 / 5 / 10 / 20 / 30 / 60 [sec]

● Operation Key

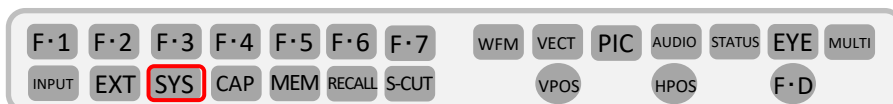
マウス／タッチパネル操作で使用する画面上のキー表示に、オペレーションキーを表示するかどうか設定します。

OFF / ON

Leader

LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル

一般的な設定 (その2)



SYS (SYSTEM) > F.2 (SYSTEM SEUP) の CAPTURE&DISPLAY 上で下記の設定ができます。(F.2 (PREV TAB) または F.3 (NEXT TAB) で表示タブの変更ができます。)

設定は F.D を回し、青枠を設定したい項目に合わせて F.D を押すとチェックマークまた、項目選択ができます。設定が完了したら、F.1 (COMPLETE) で設定を確定させます。(項目選択の場合は、選択した後に F.D を押してから、F.1 (COMPLETE) で設定を確定させます。)

CAPTURE

スクリーンキャプチャー: 表示画面を静止画として取り込む設定

●Signal Color

キャプチャーした静止画像の信号波形の表示色設定
White/Yellow/Cyan/Green/Magenta/Red/Bule

Infomation Display

●Format

フォーマット表示(1920x1080/59.94i YCbCr(422) 10bit HDなど)のオンオフ
Off / On

●Input

入力信号表示(SDI Aなど)をオンオフ
Off / On

●Icon

マウスアイコン、キーロックアイコン、USBメモリーアイコンのオンオフ
Off / On

●Error

測定画面右上のエラー表示のオンオフ
Off / On

●Temperature Warning

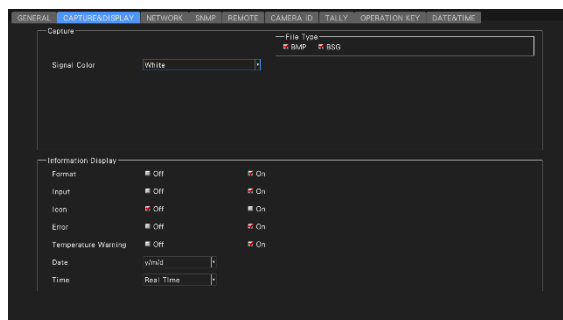
本体の内部温度が上昇したときのアラーム表示(TEMPERATURE)のオンオフ
Off / On

●Date

日付の表示形式を選択します。yが西暦、mが月、dが日となります
Off / [y/m/d] / [m/d/y] / [d/m/y]

●Time

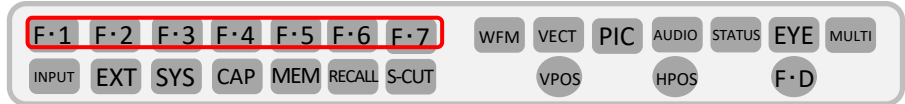
時刻の表示形式を選択します
Off / Real Time / LTC / VITC / D-VITC



Leader

LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル

ファンクション操作



通常、ファンクションメニューは表示されていますが、現在選択しているモードキーを押すと消すことができます。また、SYSメニューのGENERALタブで、自動で消える設定もできます。(例は **WFM** > **F.1** (WFM INTEN/CONFG) 上の操作です。)

1. 選択ファンクション

- ・複数選択が有る場合プルアップメニューが表示されているときにファンクションを押すと切り替わります。マウスやタッチパネルはプルアップメニューが表示されているときにダイレクトに選択できます。

例として波形の色を白色からシアン色への変更手順

- ① F.4を押します。
- ② プルアップメニューが出ます。
- ③ プルアップメニュー表示状態でF.4を押します。
- ④ WHITEからYELLOWに変わります。
- ⑤ プルアップメニュー表示状態でF.4を押します。
- ⑥ YELLOWからCYANに変わります。
- ⑦ F.4を押さないでいるとプルアップメニューが消えてCYANに固定されます。



2. 切替ファンクション

- ・ONとOFF等の2つのみの切替はファンクションを押すと切り替わります。マウスやタッチパネルはクリックもしくはタッチして切り替わります。

例として波形のY表示をONからOFFからONの変更手順

- ① F.2を押します。
- ② YがONからOFFに変わります。
- ③ F.2を押します。
- ④ YがOFFからONに変わります。

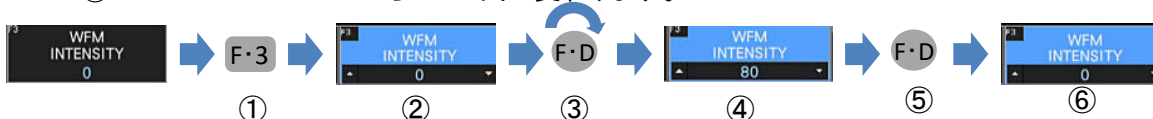


3. 値変更ファンクション

- ・ファンクションを押して値変更をします。変更はF.Dを回して変更します。F.Dを押すとデフォルト値になります。マウスやタッチパネルは値変更ファンクションのときにマウスはホイールで変更できます。タッチパネルはF.Dアイコンの▲もしくは▼をタッチして変更できます。

例として波形の輝度を変更する手順

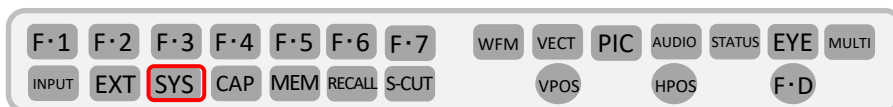
- ① F.3を押します。
- ② WFM INTENSITY が値変更ファンクションに変わります。
- ③ F.Dを右に回します。
- ④ WFM INTENSITY が0から80へ徐々に変わります。
- ⑤ F.Dを押します。
- ⑥ WFM INTENSITY が80から0へ一気に変わります。



Leader

LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル

クイックマニュアル 使用時の設定



このページ以後に進む場合はこの設定後にお進み下さい。

SYS > **F.2** (SYSTEM SETUP) の **GENERAL** 上で下記の設定ができます。赤丸に設定して下さい。

Function Menu

● Mode Key Direct **Single** Multi/Single Common

● Auto Off

最終キー操作から自動でファンクションメニューが消えるまでの時間を設定します。

Off / 1 / 2 / 3 / 4 / 5 / 10 / 20 / 30 / 60 [sec]

On-screen Menu

● Auto Off

マウス／タッチパネル操作で使用する画面上のキー表示で、最終キー操作から自動でキー表示が消えるまでの時間を設定します。

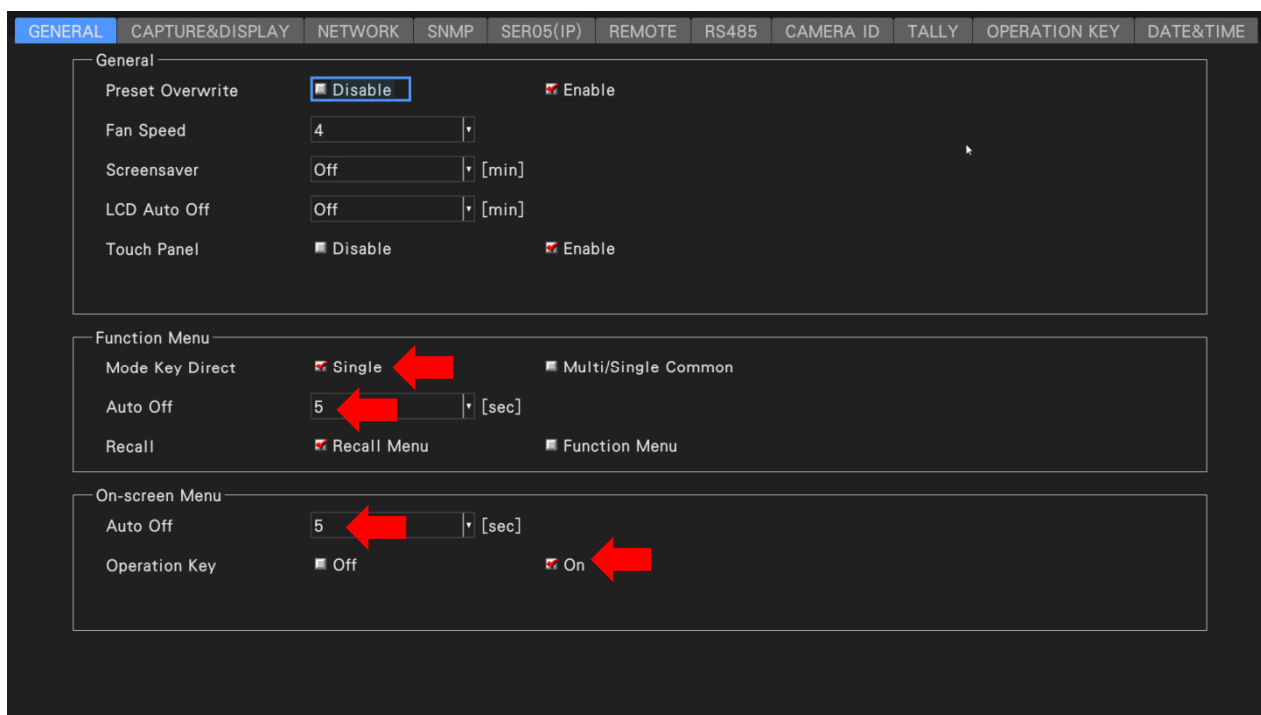
Off / 1 / 2 / 3 / 4 / **5** / 10 / 20 / 30 / 60 [sec]

● Operation Key

マウス／タッチパネル操作で使用する画面上でのオペレーションキーの表示／非表示を設定します。

Off / **ON**

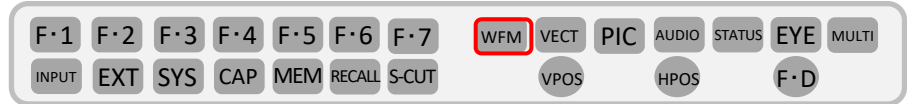
F.1 (COMPLETE) で設定を確定させます。)



Leader

LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル

波形表示(その1)



波形表示色設定 (例 波形をマルチ色に変更)

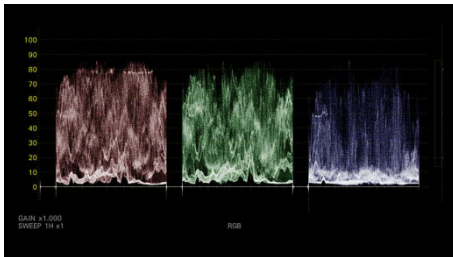
- ・ **WFM** (WAVEFORM)を押すと波形が表示されます。

F.1 (WFM INTEN/CONFIG)>**F.4** (WFM COLOR)をMULTIに切り替えます。

注意: **F.1** が (WFM INTEN/CONFIG) 以外のときは **WFM** (WAVEFORM)を2度押して下さい。

波形表示マトリクス設定 (例 波形をRGBに変更)

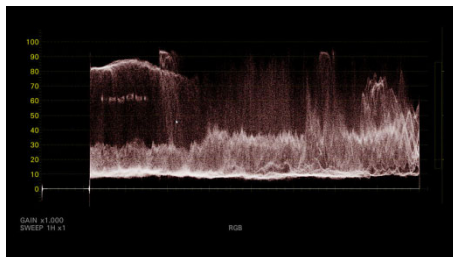
- ・ **F.7** (up manu)>**F.7** (COLOR SYSTEM)>**F.1** (COLOR MATRIX)をRGBに変更します。
COLOR MATRIXではYCbCr/GBR/RGB/COMPOSITEに切り替えが可能です。



RGB表示

波形表示ON-OFF設定 (例 波形をRのみに変更)

- ・ **F.7** (up manu)>**F.1** (WFM INTEN/CONFIG)>**F.2** (WFM MODE) のGとBをOFFに変更します。

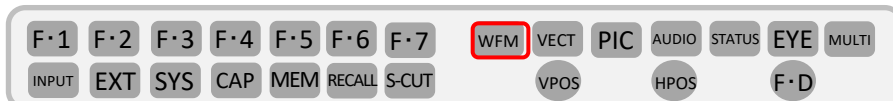


Rのみの表示

Leader

LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル

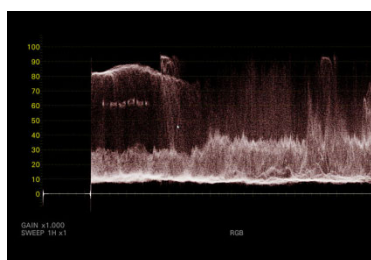
波形表示(その2)



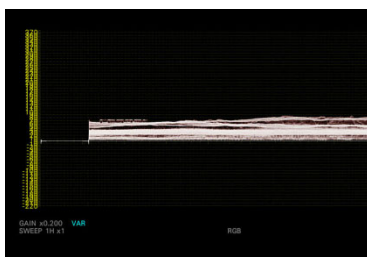
波形可変表示設定

- WFM (WAVEFORM)を押すとSDI波形が表示されます。
- F.2 (GAIN/FILTER) > F.2 (GAIN MAG)をX1に切り替えます。F.1 (GAIN VARIABLE)をVARIABLEに切り替えます。
- 注意: F.2 が (GAIN/FILTER) 以外のときは WFM (WAVEFORM)を2度押して下さい。
- F.D (FUNCTION DIAL)を右左に回すもしくは、マウスのフライホイールを回すと波形が可変して拡大縮小されます。
- F.D (FUNCTION DIAL)を押すとX1に戻ります。

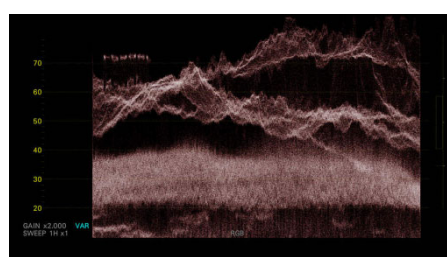
右側にフルスケールに対しての拡大部分が四角い枠として表示されます。



X1 表示



縮小 表示



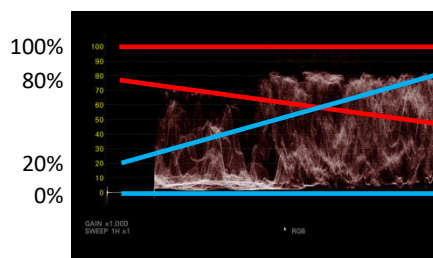
拡大 表示

フルスケールに対しての表示部分が四角い枠となります。

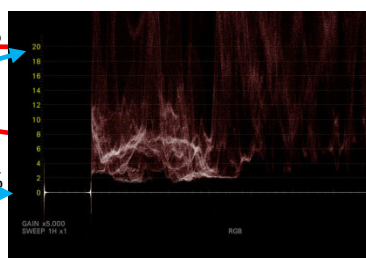
スケールジャンプ波形表示設定 (例 X5の80%に変更)

拡大したいベースポイントを設定できます。

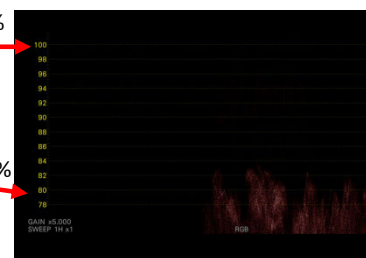
- F.2 (GAIN MAG)をX5に設定し、F.5 (SCALE JUMP) を80%に変更します。
- 基本のベースは0%ですが、スケールジャンプのポイントがベースとなります。
- (SCALE JUMPはX5もしくはX10のみ選択でき、0%,10%,20%,30%,40%,50%,60%,70%,80%,90%,100%,CURSORの選択ができます。CURSORはY測定カーソルをベースに設定できます。)



X1 表示



X5 表示

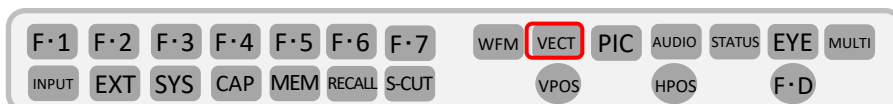


X5表示
SCALE JUMP 80%

Leader

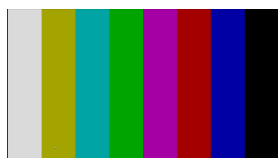
LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル

ベクトルスコープ表示 (その1)

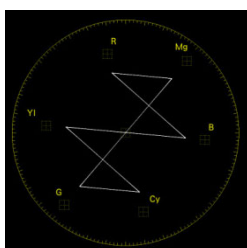


COLOR BAR 100% 75%設定

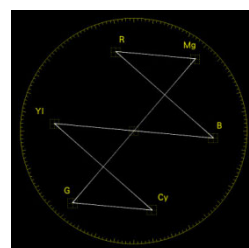
- ・ **VECT** (VECTOR SCOPE)を押すとベクトルスコープが表示されます。
 - ・ **F.7** (COLOR SYSTEM)> **F.2** (COLOR BAR)を 100% もしくは75%に変更します。
- 注意: **F.7** が (COLOR SYSTEM) で無いときは **VECT** (VECTOR SCOPE)を2度押して下さい。



75% COLOR BAR入力



COLOR BAR 100%設定
(ターゲットから外れています)



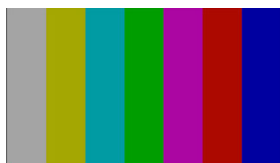
COLOR BAR 75%設定

VECTOR SCALE 設定

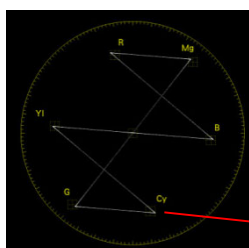
- ・ **VECT** (VECTOR SCOPE)を押すとベクトルスコープが表示されます。
 - ・ **F.2** (VECTOR SCALE)> **F.4** (VECTOR SCALE)をAUTO/BT.601/BT.709/DCI/BT.2020に変更します。
- 注意: **F.2** が (VECTOR SCALE) で無いときは **VECT** (VECTOR SCOPE)を2度押して下さい。

AUTOはSDI設定のColorimetryの設定が反映されます。

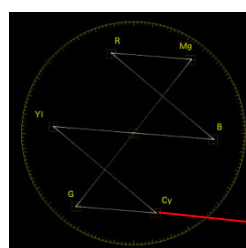
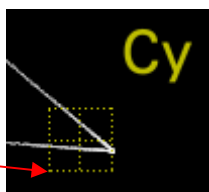
それ以外は設定のスケールとなります。



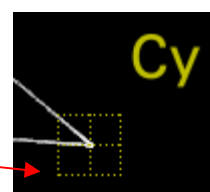
BT.2020 COLOR BAR入力



VECTOR SCALE BT.709設定
(ターゲットから外れています。)



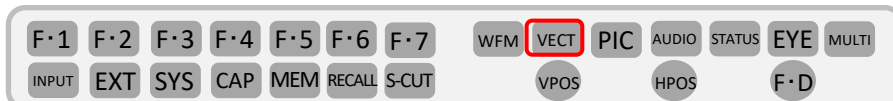
VECTOR SCALE BT.2020設定



Leader

LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル

ベクトルスコープ表示 (その2)



バリアブルスケール表示設定

- ・ **VECT** (VECTOR SCOPE)を押すとベクトルスコープが表示されます。

F.2 (VECTOR SCALE) > **F.5** (VARIABLE SCALE)をONに切り替えます。

注意: **F.2** が (VECTOR SCALE) で無いときは **VECT** (VECTOR SCOPE)を2度押して下さい。

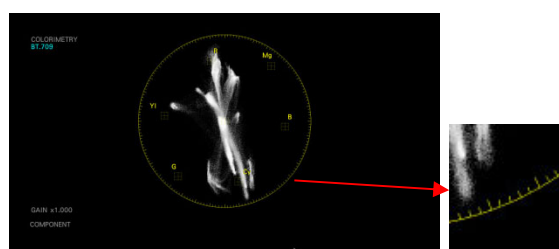
F.7 (up menu) > **F.3** (VECTOR GAIN) > **F.1** (GAIN VARIABLE)をVARIABLEにします。

2倍以上必要なときは **F.2** (GAIN MAG)をX5に変更し、**F.3** (GUIDE DISPLAY)をONに変更して下さい。

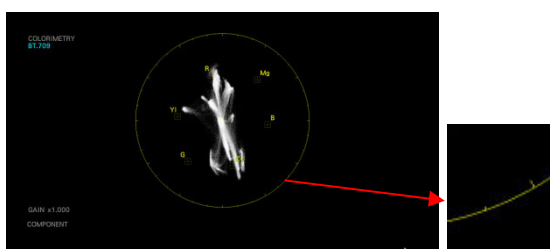
センター位置の移動は **VPOS** (V POS) **HPOS** (H POS)で移動ができます。

F.D (FUNCTION DIAL)を右左に回すもしくは、マウスのフライホイールを回すと波形が可変して拡大縮小されます。

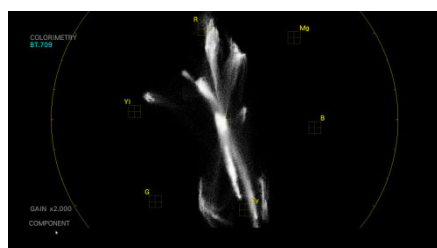
F.D (FUNCTION DIAL)を押すことで X1に戻ります。



VARIABLE SCALE OFF表示



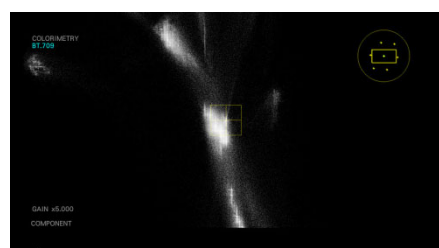
VARIABLE SCALE OFF表示



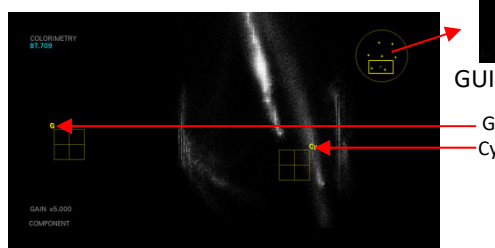
VARIABLE SCALE ONにてX2拡大表示



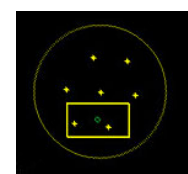
VARIABLE SCALE ONにて縮小表示



VARIABLE SCALE ONにてX5表示



VARIABLE SCALE ONにてX5にて
V-POSとH-POSを変更して
GとCyを表示する様に変更した表示



GUIDE DISPLAY表示

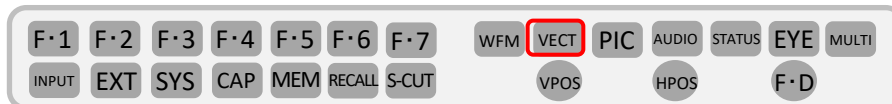
Leader

LV5600/LV7600 クイックマニュアル

ベクトルスコープ表示

(その3)

UHD TV/HLG カラーバー対応



1. UHD TVカラーバー(ARIB STD-B66)を入力します。

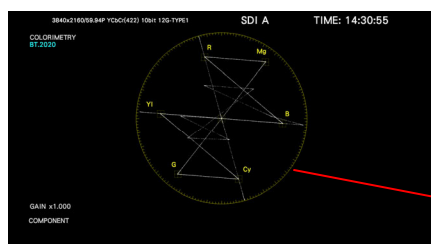
2. ベクトルスコープを75%に切替ます。

- ・ **VECT** (VECTOR SCOPE)を押すとベクトルスコープが表示されます。
- ・ **F.7** (COLOR SYSTEM) > **F.2** (BAR)を75%に切り替えます。

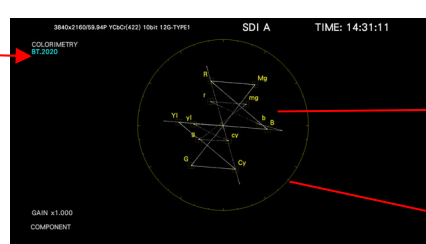
注意: **F.2** が (COLOR SYSTEM) で無いときは **VECT** (VECTOR SCOPE)を2度押して下さい。

3. バリアブルスケール表示ON及びARIB CHECK MARKERの切替

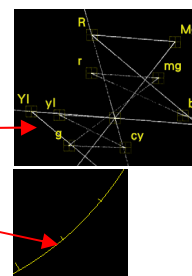
- ・ **F.7** (up menu)を押します。
- ・ **F.2** (VECTOR SCALE) > **F.5** (VARIABLE SCALE)をONに切り替えます。
- ・ **F.3** (ARIB CHECK MARKER)をSTD-B66に切り替えます。※COLORIMTRYがBT2020になっている必要があります。



VARIABLE SCALE OFF表示

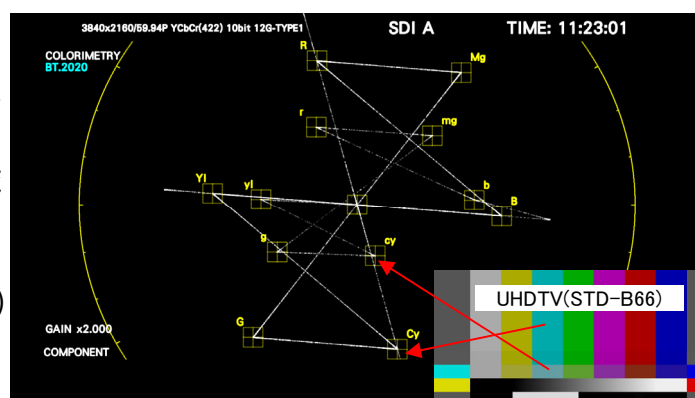


VARIABLE SCALE ON表示
STD-B66に切り替え



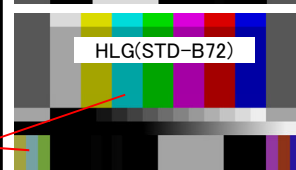
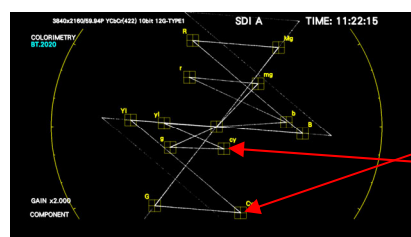
4. バリアブルスケール表示ON

- ・ **F.7** (up menu)を押します。
- ・ **F.3** (VECTOR GAIN) > **F.1** (GAIN VARIABLE) を VARIABLEにします。
- ・ **F.D** (FUNCTION DIAL)を右左を回すと波形が可変して拡大縮小されます。
- ・ **F.D** (FUNCTION DIAL)を押すとX1に戻ります。センター位置の移動は **VPOS** (V POS) **HPOS** (H POS) で移動が出来ます。



5. HLGカラーバー(ARIB STD-B72)の場合

- ・ ARIB STD-B72 パターンを入力します。
- ・ 項目3の **F.3** (ARIB CHECK MARKER)をSTD-B72に切り替えます。



Leader

LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル

CIE色度図表示

(LV5300-SER22、LV5350-SER22、LV7300-SER22)



CIE色度図とは人が感じる色合いを数値化したものでBT.709とBT.2020等の差を表示できます。

VECT (VECTOR) > F.1 (VECT INTEN/CONFIG) > F.1 (VECTOR DISPLAY)をCIE DIAGRAMに変更します。

注意: VECT (VECTOR)を押してF.1が(VECT INTEN/CONFIG)で無いときはVECT (VECTOR)を2度押して下さい。

カラートライアングル設定の変更

F.7 (up menu)を押します。もしくは VECT (VECTOR)を2度押してメインメニューに移動します。

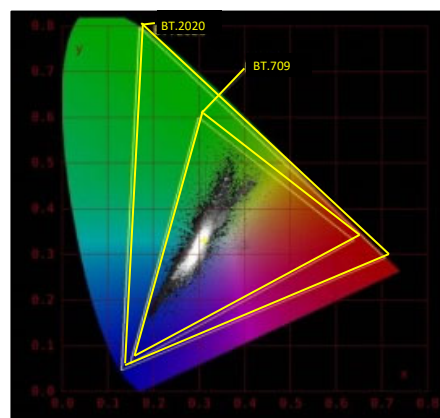
F.2 (CIE DIAGRAM SCALE) > F.2 (TRIANGLE1)、F.3 (TRIANGLE2)で黄色い規格スケーラーを表示できます。

Payload ID設定およびカラリメトリー設定

SYS (SYSTEM) > F.1 (SIGNAL IN OUT) > SDI IN SETUP1

・SDI COLORIMETRY項目で下記の4つから選択できます。

Payload ID、BT-709、BT-2020、DCI



CIE色度図

カラースケール設定

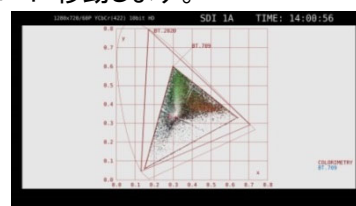
F.7 (up menu)を押します。もしくは VECT (VECTOR)を2度押してメインメニューに移動します。

F.2 (CIE DIAGRAM SCALE) > F.1 (COLOR)にて変更します。

B.G. COLOR: カラースケールを表示します。背景は黒、波形は輝度レベルに応じて表示します。

B.G. WHITE: カラースケールを表示しません。背景は白、波形はピクチャーの色に応じて表示します。

B.G. BLACK: カラースケールを表示しません。背景は黒、波形はピクチャーの色に応じて表示します。



B.G. WHITE 時

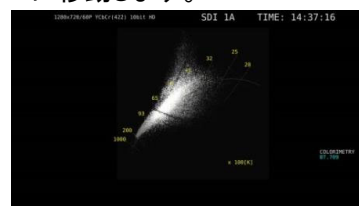
表示モード設定(色度図／色温度 表示切換)

F.7 (up menu)を押します。もしくは VECT (VECTOR)を2度押してメインメニューに移動します。

F.3 (CIE DIAGRAM SETTING) > F.1 (DISPLAY MODE)で変更します。

DIAGRAM: 色度図を表示します。

TEMP: 色温度を表示します。

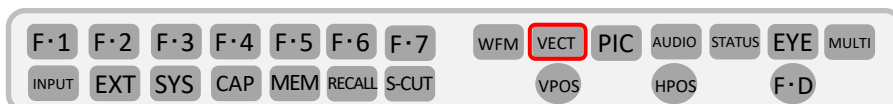


TEMP時

Leader

LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル

5BARガマット表示

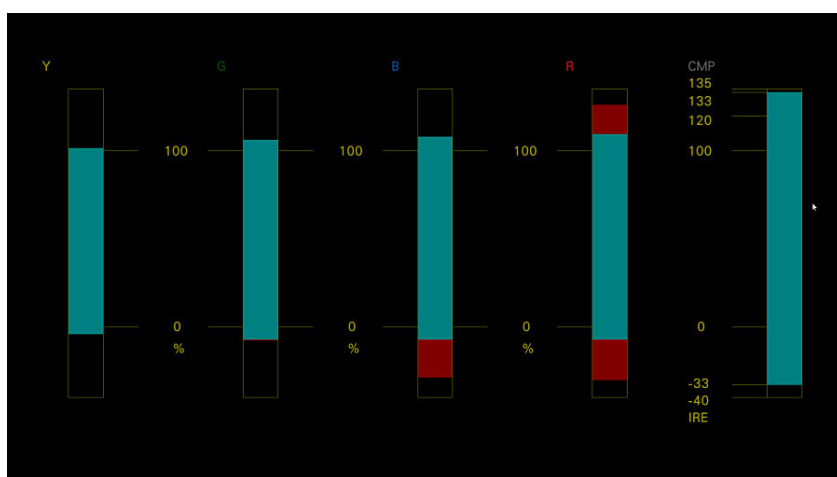


5BARガマット表示はRGBとコンポジットのガマットエラーをそれぞれ分けて表示できます。

5BARの表示

VECT (VECTOR) > **F.1** (VECT INTEN/CONFIG) > **F.1** (VECTOR DISPLAY) を5BARに変更します。

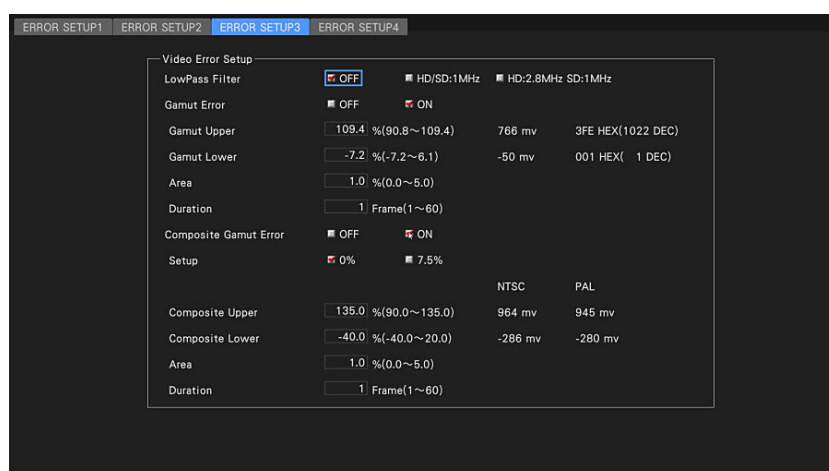
注意: **VECT** (VECTOR) を押して **F.1** が (VECT INTEN/CONFIG) で無いときは **VECT** (VECTOR) を2度押して下さい。



5BAR表示

5BARの設定

STATUS (STATUS) > **F.5** (STATUS SETUP) にて タブを **ERROR SETUP3** に変更して下のような設定ができます。

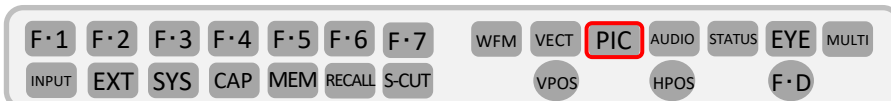


5BAR設定

Leader

LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル

ピクチャー表示



日本語字幕表示機能 (LV5300-SER21、LV5350-SER21、LV7300-SER21)

ピクチャー上に日本語字幕を簡易表示が可能です。

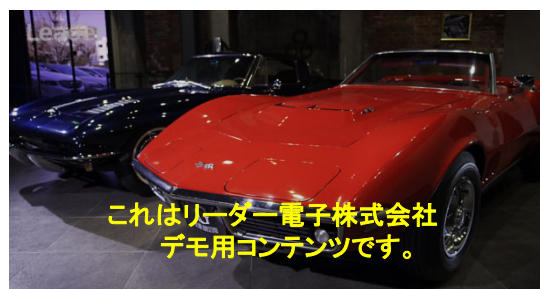
PIC (PICTURE) > F・1 (PIC CONFIG) > F・5 (SUPER IMPOSE) > F・1 をARIB に設定します。

注意: ● PIC (PICTURE)を押してF・1 が (PIC CONFIG) で無いときは
PIC (PICTURE)を2度押して下さい。

● 入力フォーマットが3G-B時は F・5 (SUPER IMPOSE)は
表示されません。

F・2 (FORMAT)にてHD/SD/ANALOG/CELLULARを選択できます。

F・3 (LANGUAGE)にて1/2の選択ができます。



日本語字幕表示

ピクチャーモード

ピクチャーをリアル表示や2倍で表示が可能です。

PIC (PICTURE) > F・1 (PIC CONFIG) > F・1 (PICTURE MODE)にてFIT / REAL / X2 / FULL FRM を選択できます。

注意: ● PIC (PICTURE)を押して F・1 が (PIC CONFIG) で無いときは PIC (PICTURE)を2度押して下さい。

HDの場合はFIT / REAL / X2 / FULL FRMの選択が可能です。

4Kの場合はFIT / REALの選択が可能です。

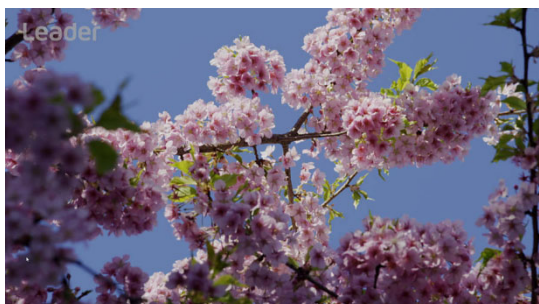
HDのX2もしくは4KのREALでは VPOS (V-POS)および HPOS (H-POS)により表示部分位置を変更できます。



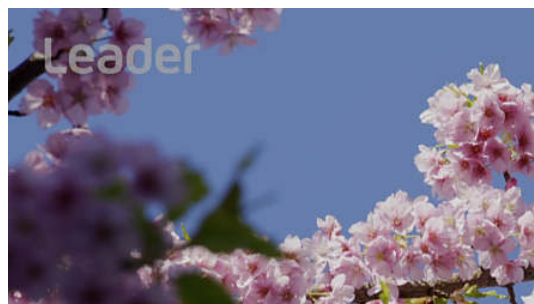
HDコンテンツの FIT表示



HDコンテンツのX2表示



4Kコンテンツの FIT表示

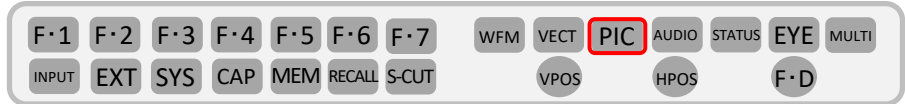


4KコンテンツのREAL表示

Leader

LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル

シネライト (%表示)



シネライト%表示機能

ピクチャーの任意ポイントの輝度やRGB値やSDIデータ値を最大3ポイント測定が可能です。

PIC (PICTURE) > **F.2** (CINELITE または CINELITE/HDR) > **F.1** (CINELITE DISPLAY) を %DISPLAY に設定します。

注意: **PIC** (PICTURE) を押して **F.2** が (CINELITE または CINELITE/HDR) で無いときは **PIC** (PICTURE) を2度押して下さい。

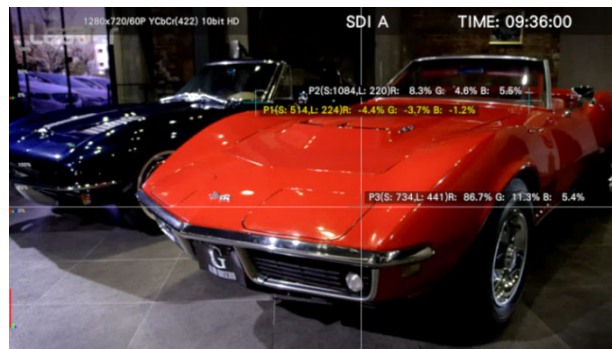
F.2 (%DISPLAY SETUP) を押して下記の設定が行えます。

- **F.1** (MEASURE NUMBERS): 表示する測定ポイント数設定、P1、P1+P2、P1+P2+P3 (1~3ポイント)
- **F.2** (MEASURE POSITION): カーソルを移動する測定ポイント選択できます。

位置の移動は **VPOS** (V POS) **HPOS** (H POS) もしくはマウスで移動ができます。

(マウス移動の場合は、移動するポイント(クロスポイント)を左クリックでポイントを赤にしてから移動先で左クリックします。)

- **F.3** (MEASURE SIZE): 測定サイズ選択、1x1 (1画素)、3x3 (3x3画素平均化)、9x9 (9x9画素平均化)
- **F.4** (UNIT SELECT): 輝度レベル値表示設定、Y%、RGB%、RGB255、CV、CV(DEC)、HDR
(* HDRはLV5300-SER23、LV5350-SER23、LV7300-SER23 (HDR) オプションが入っていて、HDR設定がONになっている時に有効です。)



シネライトアドバンス機能

F.7 (up menu) を押します。もしくは **PIC** (PICTURE) を2度押してメインメニューに移動します。

F.2 (CINELITE または CINELITE/HDR) >

F.4 (CINELITE ADVANCE) をONにします。

MULTI (MULTI) を押します。

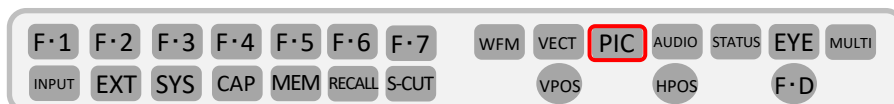
シネライト画面で設定した測定ポイントと波形画面、ベクトル、CIE色度図にマーカーとして連携が表示されます。



Leader

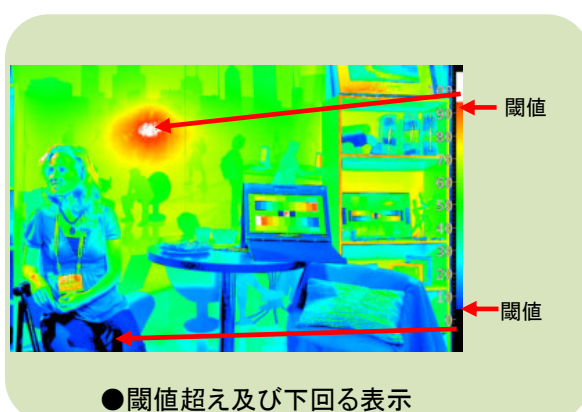
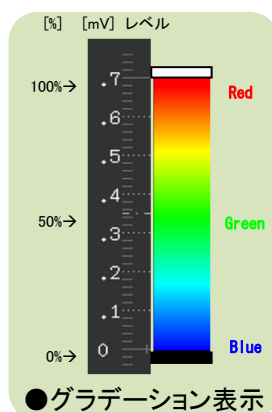
LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル

シネゾーン



シネゾーン機能には、3つの機能があります。

1. ピクチャーの輝度レベルを色に置き換えて表示するグラデーション表示機能により輝度分布が解ります。
2. 輝度レベルに閾値を設定してそれを超えるもしくは下回る部分を表示する機能により飽和が解ります。
3. サーチ機能は設定した輝度レベルを緑色で表示しピクチャー上から設定した輝度が解ります。



1. グラデーション表示

PIC (PICTURE) > F.2 (CINELITE または CINELITE/HDR) > F.1 (CINELITE DISPLAY) をCINEZONEに設定します。

注意: ● PIC (PICTURE) を押して F.2 が (CINELITE または CINELITE/HDR) で無いときは PIC (PICTURE) を2度押して下さい。

2. 閾値設定

グラデーション表示設定後に F.2 (CINEZONE SETUP) を押して F.2 (UPPER) もしくは F.3 (LOWER) を押して F.D (FUNCTION DIAL) にて設定します。

F.2 UPPER: -6.3 ~ -109.4 の範囲で設定ができます。

F.3 LOWER: -7.3 ~ -108.4 の範囲で設定ができます。

3. サーチレベル設定

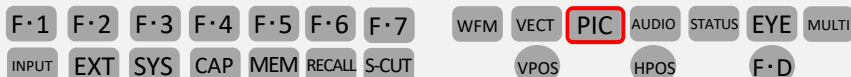
閾値設定後に F.1 (CINEZONE FORM) をSEARCHIに設定し、F.4 (LEVEL %) を押して F.D (FUNCTION DIAL) にて設定を行います。

Leader

LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル

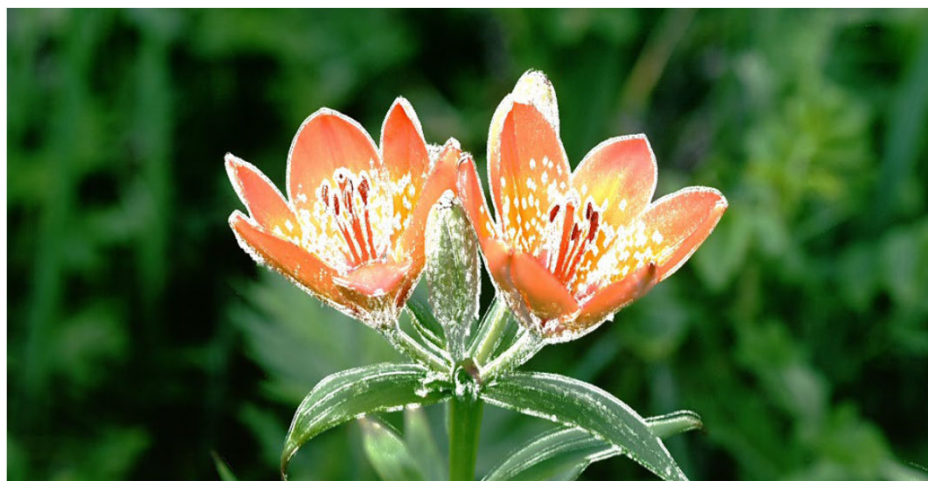
フォーカスアシスト

(LV5300-SER25、LV5350-SER25、LV7300-SER25)



フォーカスアシスト表示は、検出したエッジの量に応じてハイライト表示することによって、フォーカスを簡単に確認できるようにする機能です。

(注意: PICTURE MODEがFULL FRM時は表示されません。)



フォーカスアシスト表示

フォーカスアシスト設定

PIC (PICTURE) > F·4 (FOCUS)を押します。

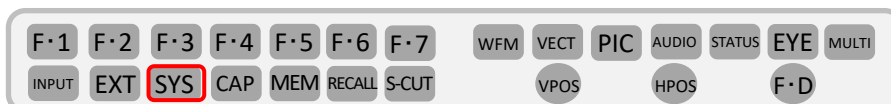
1. 表示モード選択 F·1 (SIZE) (表示サイズの選択をします。)
FIT/REAL/x2
2. フォーカスアシスト ON/OFF F·2 (FOCUS ASSIST) (フォーカスアシスト表示のオンオフ設定をします。)
ON/OFF
3. 検出感度選択 F·3 (SENSITIVE) (検出エッジ感度の設定を行います。)
LOW / MIDDLE / HIGH / V-HIGH / U-HIGH
4. 輝度レベル選択 F·4 (PICTURE LEVEL) (ピクチャー表示の輝度レベル調整を行います。)
OFF / EMBOSS / 25 / 50 / 75 / 100
(OFF:ピクチャー未表示、EMBOSS:エッジの浮き彫り表示。)
5. ハイライト色選択 F·5 (EDGE COLOR) (検出エッジの表示色を選択します。)
WHITE / RED / GREEN / BLUE

Leader

LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル

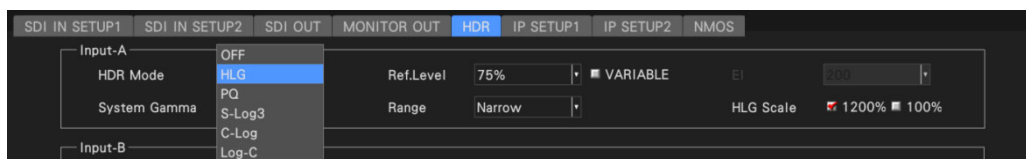
HDR表示(その1)

(LV5300-SER23、LV5350-SER23、LV7300-SER23)



HDRのSystem設定

- **SYS** (SYSTEM) > **F.1** (SIGNAL IN OUT) > **HDR** 上のHDR MODE を入力信号に合わせて HLG、PQ、S-Log3、C-Log、Log-Cの中から選択します。
- Ref.LevelはHDRとSDRの境目のレベル設定の固定値選択もしくは、VARIABLEにレ点を入れると自由に可変変更が可能になります。
(可変は **PIC** > **F.2** (CINELITE/HDR) > **F.2** (CINEZONE SETUP) > **F.4** (REF[%])で設定できます。)
- Range はNarrowとFullの選択が可能です。
- System Gamma にてシステムガンマのOFF/ONが可能です。
- HLG Scaleにて最大スケールを1200%もしくは100%の選択が可能です。
- 変更は **F.D** (FUNCTION DIAL)もしくはマウスを使用して選択します。
- 設定の最後に **F.1** (COMPLETE)を押して確定します。



HDR表示波形表示

- HDRのSystem設定後に **WFM** (WAVEFORM)を押すと波形が表示されて右側にHDRスケールが出ています。
- **F.1** (WFM INTEN/CONFIG)を押します。
注意: **F.1** が (WFM INTEN/CONFIG) で無いときは **WFM** (WAVEFORM)を2度押して下さい。
- **F.5** (WFM SCALE)を押します。
- **F.3** (SCALE SETTING) > **F.3** (SCALE DISPLAY)にて次のスケールラインの選択ができます。

MAIN: SDIスケールラインとHDRのリファレンス

スケールライン同時表示

HDR :HDRスケールラインとHDRリファレンス

スケールライン同時表示

BOTH:SDIスケールラインとHDRスケール

ラインとHDRリファレンスライン同時表示

OFF :HDRリファレンススケールラインのみ表示

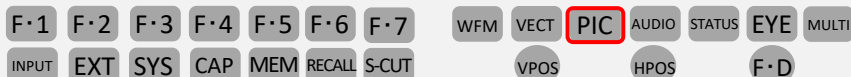


Leader

LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル

HDR表示(その1)

(LV5300-SER23、LV5350-SER23、LV7300-SER23)

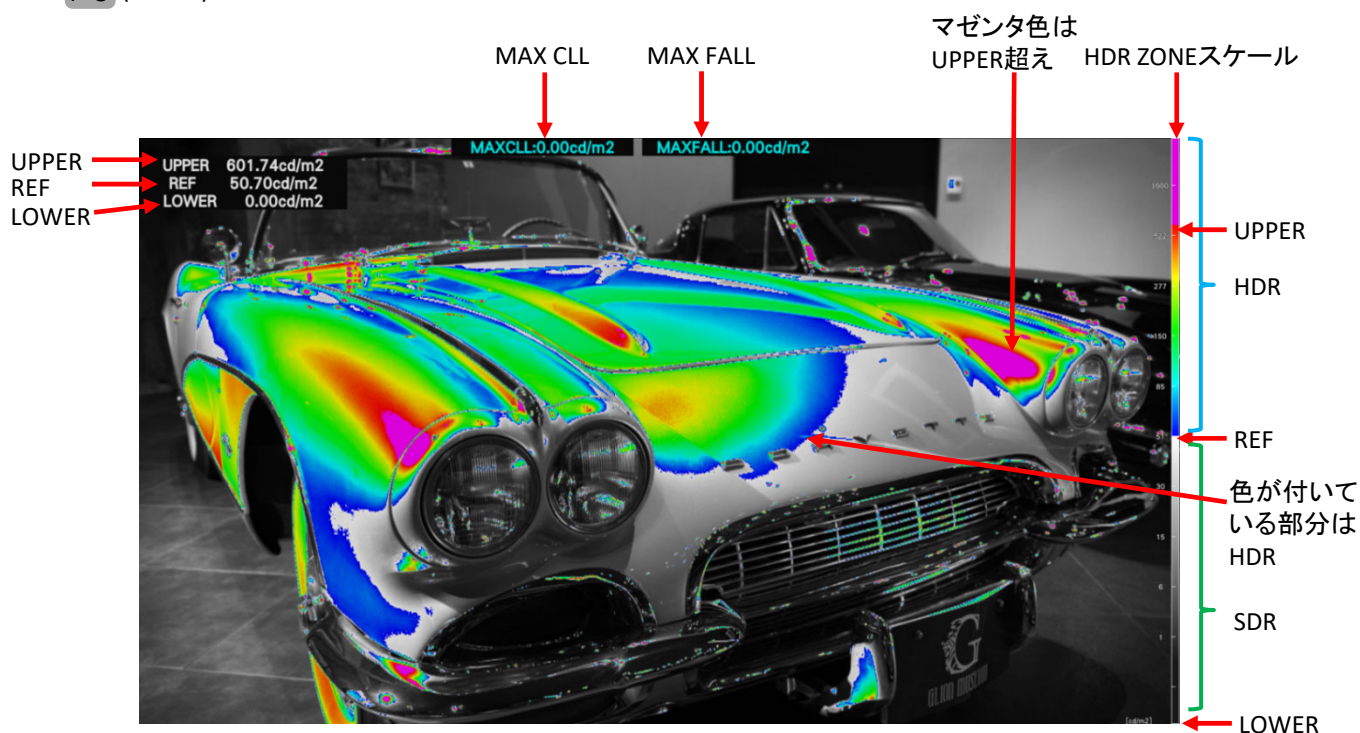


HDR ZONE表示

・HDRのSystem設定後に **PIC** (PICTURE) > **F・2** (CINELITE/HDR) > **F・1** (CINEZONE DISPLAY) をCINEZONE に設定します。

注意: **PIC** (PICTURE)を押して **F・2** が (CINELITE/HDR) で無いときは **PIC** (PICTURE)を2度押して下さい。

- ・ **F・4** (HDR ZONE)をONにします。
- ・ **F・2** (CINEZONE SETUP)を押しますとUPPER、REF、LOWERの値が左上に表示されます。
- ・ **F・2** (UPPER)を変更するとUPPERの閾値を変更出来ます。閾値を超えるとマゼンタ色になります。
- ・HDRのSystem設定にてRef.LevelのVARIABLEにレ点を入れると **F・4** (REF LEVEL[%])の設定が可能になります。
- ・ **F・7** (up menu) > **F・3** (MAX FALL/CLL) > **F・1** (MAX FALL/CLL DISPLAY)で表示ON/OFF設定可能です。
- ・ **F・2** (MEASURE)にてSTART/STOPが可能です。
- ・ **F・3** (CLEAR)を押すと測定値がクリアされます。



HDR ZONE表示

HDRモニターにてHDRコンテンツを見ても、HDR部分とSDR部分との識別ができません。
しかし、HDR ZONE機能では、設定されたREF値による色づけでHDR部分とSDR部分との識別が可能です。
さらに、設定されたUPPER値によりHDRの上限値を超えた部分も解ります。

Leader

LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル

AUDIO

(LV5300-SER20、LV5350-SER20、LV7300-SER20)

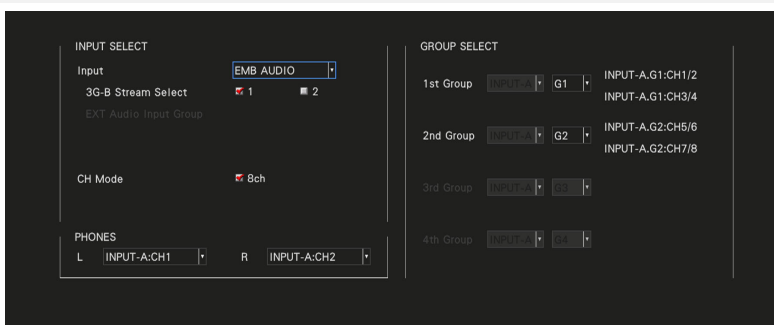


AUDIOマッピング設定

AUDIO (AUDIO) > **F.7** (MAPPING) にて **TARGET** にします。

注意: **F.7** が (MAPPING) で無いときは **AUDIO** (AUDIO) を2度押して下さい。

- **INPUT**: EMB AUDIO: SDI INPUTに入力したエンベデットオーディオの測定
 - **CH Mode**: 測定チャンネル数設定 (8ch)
 - **GROUP SELECT**: オーディオグループ設定 (G1/G2/G3/G4)
- INPUT 設定がSIMULになっている場合は入力チャンネルの選択も可能です。



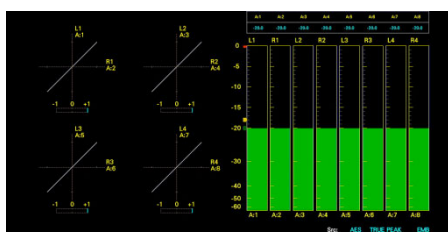
AUDIO表示モード設定

F.7 (up menu) または、**AUDIO** (AUDIO) > **F.1** (DISPLAY MODE)

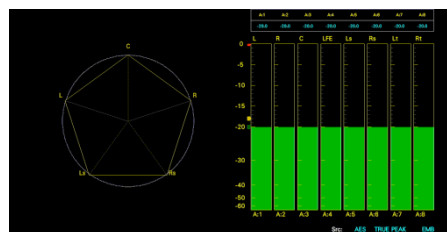
注意: **F.1** が (DISPLAY MODE) で無いときは **AUDIO** (AUDIO) を2度押して下さい。

- **LISAJOU**: リサーチを表示します。オーディオメーターも表示します。
- **SURROUND**: 左半分にサラウンド、右半分にオーディオメーターを表示します。
サイマルモードでは選択できません。
- **STATUS**: ステータスを表示します。オーディオメーターも表示します。

LISAJOU



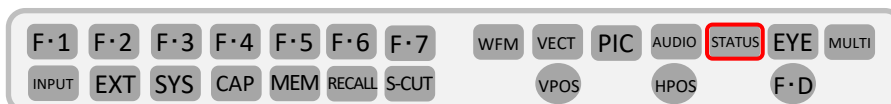
SURROUND



Leader

LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル

STATUS



STATUS (STATUS)を押します。

注意: • STATUS (STATUS)を押しても下のような図と同じで無いときは STATUS (STATUS)を2度押して下さい。

• 2画面の時はDISPLAY設定を変更します。 INPUT (INPUT) > F-7 (DISPLAY)をSINGLEに設定します。

• SIGNAL

SDI 信号が入力されているかどうかを、「DETECT」または「NO SIGNAL」で表示します。

「NO SIGNAL」の場合、以降の項目は表示しません。

• FORMAT/SUB IMAGE FORMAT

入力信号のフォーマットを表示します。

通常は水色で表示されますが、適切なフォーマットが入力されないと赤色に変わります。

• Freq(周波数偏差)

サンプリング周波数偏差を表示します。

• Cable (ケーブル線長計)

入力信号の減衰量を、選択したケーブルの長さに換算して表示します。

12 G: < 10m、10 ~ 80m、> 80m (5m ステップ)

3G: < 10m、10 ~ 100m、> 100m (5m ステップ)

HD: < 10m、10 ~ 130m、> 130m (5m ステップ)

SD: < 50m、50 ~ 200m、> 200m (5m ステップ)

• Embedded Audio

入力信号に重畳されているエンベデッドオーディオのチャンネルを表示します。

入力信号が3G-B-DL のときは、ストリーム1 のみ表示します。

3840x2160/59.94P YCbCr(422) 10bit 12G-TYPE1

SDI A

TIME: 09:46:35

STATUS

	Signal	Sub Image Format	Freq.	Cable	Embedded Audio
SUB 1	DETECT	1920x1080/59.94P TYPE1	-2.2ppm	60m	1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15,16
SUB 2	DETECT	1920x1080/59.94P TYPE1			1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15,16
SUB 3	DETECT	1920x1080/59.94P TYPE1			1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15,16
SUB 4	DETECT	1920x1080/59.94P TYPE1			1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15,16

ERROR

SDI	SUB 1	SUB 2	SUB 3	SUB 4	ANC	SUB 1	SUB 2	SUB 3	SUB 4
CRC	0	0	0	0	Check Sum	0	0	0	0
TRS Position	0	0	0	0	Parity	0	0	0	0
TRS Code	0	0	0	0					
Illegal Code	0	0	0	0					
Line Number	0	0	0	0					
Embedded Audio	SUB 1	SUB 2	SUB 3	SUB 4	Video Quality	SUB 1	SUB 2	SUB 3	SUB 4
BCH	0	0	0	0	Freeze				
Parity	0	0	0	0	Black				
DBN	0	0	0	0	Gamut				
Inhibit	0	0	0	0	Cmp. Gamut				
Audio Sample	0	0	0	0	Level Y				
					Level C				

SinceReset 00:02:21

F1

EVENT LOG

F2

SDI / IP ANALYSIS

F3

ANC DATA VIEWER

F4

ANC PACKET

F5

STATUS SETUP

F6

INPUT SELECT A

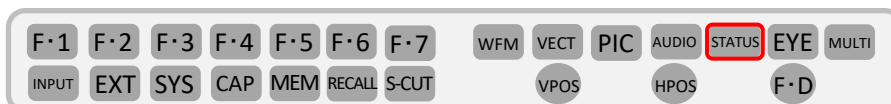
F7

ERROR CLEAR

STATUSエラーは F-5 (STATUS SETUP)で
エラー検出のON/OFF設定が可能です。

LV5600／LV7600 クイックマニュアル

Payload ID表示
SRLive Metadata表示



PAYLOAD表示設定

STATUS (STATUS) > **F・4** (ANC PACKET) > **F・1** (PACKET ANALYSYE) > **F・2** (PAYLOAD ID)にて
PAYLOADの表示がおこなえます。

※注意: STATUS (STATUS)を押してSTATUS画面が表示されないもしくは、F・4 に(ANC PACKET)が表示されない場合は、STATUS (STATUS)を2回押して下さい。

3840x2160/59.94P YCbCr(422) 10bit 3G-A QUAD(2S) SDI A-D

PAYLOAD ID DISPLAY SMPTE ST352

LINK 1[A]

INTERFACE LINE No.	10
BYTE1	10010111 [97]
VERSION ID	SMPTE ST352-2011
PAYLOAD ID	2160 LINE
DIGITAL INTERFACE	3Gb/s LEVEL-A QUAD LINK
BYTE2	11011010 [DA]
TRANSPORT STRUCTURE	PROGRESSIVE
PICTURE STRUCTURE	PROGRESSIVE
HDR / SDR	HLG
PICTURE RATE	60/1.001
BYTE3	10100000 [A0]
ASPECT RATIO	16:9
H SAMPLING	1920
COLORIMETRY	REC 2020
SAMPLING STRUCTURE	4:2:2 YCbCr
BYTE4	00000001 [01]
CHANNEL ASSIGNMENT	3G-SDI LINK1
LUMINANCE / COLOR	YCbCr
AUDIO EMB MODE	ADD CH or NOT PRESENT
BIT DEPTH	10BIT

3840x2160/59.94P YCbCr(422) 10bit 12G-TYPE1 SDI A

PAYLOAD ID DISPLAY SMPTE ST352

SUB 1[A]

INTERFACE LINE No.	10
BYTE1	11001110 [CE]
VERSION ID	SMPTE ST352-2011
PAYLOAD ID	2160 LINE
DIGITAL INTERFACE	12Gb/s
BYTE2	11011010 [DA]
TRANSPORT STRUCTURE	PROGRESSIVE
PICTURE STRUCTURE	PROGRESSIVE
HDR / SDR	HLG
PICTURE RATE	60/1.001
BYTE3	10100000 [A0]
ASPECT RATIO	16:9
H SAMPLING	1920
COLORIMETRY	REC 2020
SAMPLING STRUCTURE	4:2:2 YCbCr
BYTE4	00000001 [01]
CHANNEL ASSIGNMENT	12G-SDI
LUMINANCE / COLOR	YCbCr
AUDIO EMB MODE	ADD CH
BIT DEPTH	10BIT

HDR
HLG / PQ

カラメトリー
BT.2020 / BT.709

3G-SDI Quad Linkの Link 1

12G-SDIの Sub イメージ 1

SRLive Metadata表示設定

STATUS (STATUS) > F・4 (ANC PACKET) > F・1 (PACKET ANALYSYE) > F・4 (V-ANC) > F・2 (SMPTE)
> F・6 (SR Live)にてSRLive Metadata表示がおこなえます。

※注意: **STATUS** (STATUS)を押してSTATUS画面が表示されないもしくは、**F・4** に(ANC PACKET)が表示されない場合は、**STATUS** (STATUS)を2回押して下さい。

SR Live Packet

INTERFACE LINE No.

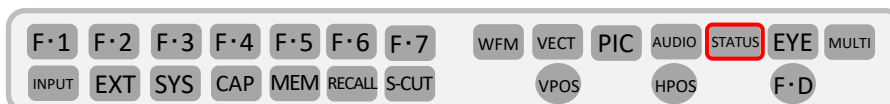
14

No.	ITEM	VALUE	CTRL[Abs]	No.	ITEM	VALUE	CTRL[Abs]
1	Table Version	V 1.00	++	14	Knee	OFF	OFF
2	OETF	HLG	++	15	Knee Point	96%	[-15]
3	Trasfer Matrix	BT.2020	++	16	Knee Slope	0.19	[+37]
4	Color Gamut	WIDE-BC	++	17	Knee Saturation	OFF	OFF
5	Conversion Mode	SR AIR ON	++	18	Knee Saturation Level	0.50	[+0]
6	HDR Look	Live	Live	19	Soft Knee	--	--
7	HDR Black Compression	ON	ON	20	Knee Radius	--	--
8	SDR Gain	-5.2dB	[-5.2dB]	21	SDR White Clip	ON	ON
9	Master Black	1.03%	[+4.7]	22	SDR White Clip Level	109%	[-94]
10	HDR Black Offset	Δ-0.99%	[-4.5]	23	HDR Knee	OFF	OFF
11	Gamma Table	STD 5	STD 5	24	HDR Knee Point	349%	[+0]
12	Gamma Step	0.45	0.45	25	HDR Knee Slope	0.65	[+0]
13	Gamma Level	0.95	[-12]				

Leader

LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル

イベントログ



STATUS (STATUS) > F.1 (EVENT LOG)で表示ができます。
イベントログでは、発生したイベントのログを一覧で表示します。

注意: STATUS (STATUS)を押してSTATUS画面が表示されない場合は、STATUS を2回押してから
F.1 (EVENT LOG)を押してください。

- ・イベント検出の対象は、現在選択しているA、Bの全チャンネルです。
ただし、12G の測定時は、現在表示しているチャンネルのみイベント検出します。
- ・F.1 (LOG)でSTART・STOPの設定ができます。
- ・F.2 (CLEAR)でイベントログの消去ができます。
イベントは、最大1000 項目まで表示できます。
1001 項目以降のイベントが発生したときの動作を F.3 (LOG MODE)で設定できます。
OVER WR: 古いイベントから上書きして記録します。
STOP: 1001 項目以降のイベントを記録しません。
- ・F.D を回してイベントを上下選択が行えます。

1920x1080/59.94P YCbCr(422) 10bit 3G-A

SDI A

TIME: 10:24:32

EVENT LOG LIST

SAMPLE No.1000

<< NOW LOGGING >>

1000: 2018/08/20 10:23:27

A

1920x1080/59.94P

CRC,

999: 2018/08/20 10:22:17

-

EMB-AUDIO

998: 2018/08/20 10:22:17

A

1920x1080/59.94P

997: 2018/08/20 10:22:17

A

1920x1080/59.94P

Black,

996: 2018/08/20 10:22:16

A

1920x1080/59.94P

Freeze,Black,

995: 2018/08/20 10:22:16

A

1920x1080/59.94P

994: 2018/08/20 10:22:16

-

NO SIGNAL

993: 2018/08/20 10:22:16

-

NO SIGNAL

992: 2018/08/20 10:22:11

-

NO SIGNAL

991: 2018/08/20 10:22:11

A

NO SIGNAL

CRC	EDH	TRS Position	TRS Code	Illegal Code	Line Number
Cable Error	Cable Warning	Check Sum	Parity	Gamut	
Cmp. Gamut		Freeze		Black	
Level Y		Level C			
Audio BCH	Audio Parity	Audio DBN	Audio Inhibit	Audio Sample	
Frequency	Format Alarm				
EYE Jitter	EYE T Jitter	EYE Tr_Tf	EYE Tf	EYE Tr	EYE Amp.
EYE Or	EYE Or				

発生した全てのエラーを画面上の口内で確認可能です。

エラーを色分け「未検知(白) / 検知(赤) / 復帰(緑)」することで、

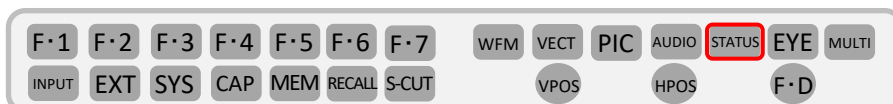
画面上でエラーの有無を容易に確認可能です。

イベントログ表示例

Leader

LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル

位相差測定



位相差測定モード設定

STATUS (STATUS) > F.2 (SDI ANALYSIS) > F.2 (EXT REF PHASE)にて位相差測定が行えます。

注意：● STATUS (STATUS)を押してSTATUS画面が表示されない場合は、STATUS を2回押してから F.2 (SDI ANALYSIS)を押して F.2 (EXT REF PHASE)を押して下さい。

● 位相差測定の基準信号として F.1 (REF SELECT)にてEXT、SDIの2種類から選択できます。

EXTはEXT REF入力信号のブラックバーストもしくは3値信号、SDIはSDI A入力信号です。

12G-SDIの場合の F.1 (REF SELECT)はEXTで固定です。

● F.1 (REF SELECT) がEXT のとき、F.2 (REF SET USER) を押すことで、現在の位相差をゼロにできます。使用システムに合わせて、任意の基準を設定できます。位相差を初期設定に戻すには、F.3 (REF SET DEFAULT) を押します。

(OH TIMING)設定 LEGACY : 当社製信号発生器から出力した、タイミングオフセットなしの外部同期信号とSDI 信号を受信した場合に、位相差を0 とします。

(他社製品やSERIAL設定できない製品の場合などの通常設定モードです。)

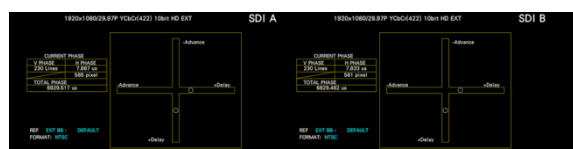
SERIA : 受信した外部同期信号とSDI 信号が、信号規格で定義されたタイミングの場合に、位相差を0 とします。

(注意:SDI入力フォーマットがSD、HD以外の時はOH TIMINGは表示されません。)



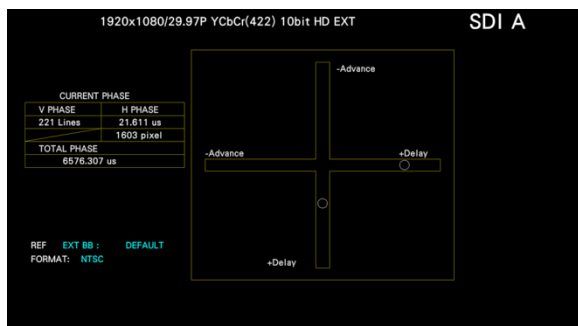
SDI A入力が基準になるため、左上は位相差測定値が表示されません。

2入力 および REF SELECT:SDI の時



EXT REF入力に対するSDI A、SDI B入力の位相差を表示します。

2入力 および REF SELECT:EXT の時



System設定がSD/HD/3G-A/3G-B-DLの時、SELECT CHで設定されたチャンネルと位相差の測定をします。

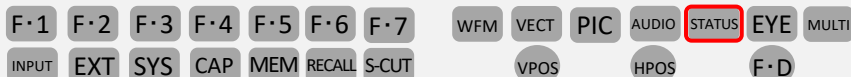
HD入力 (SDI A入力) および REF SELECT:EXT の時

Leader

LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル

AV PHASE測定

(LV5300-SER20、LV5350-SER20、LV7300-SER20)



AV PHASE 設定

リップシンクパターンをSDI入力してそれを測定する事によりAV PHASE (Lip Sync)の映像と音の遅延測定が行えます。

パターンはLV5600-SER24、LV7600-SER24、LV5300-SER24、LV5350-SER24、LV7300-SER24 TSGもしくは弊社のシンクジェネレーターLT4600A/LT4610/LT4611 (LT4611SER22付き)から出力できます。

出力パターンをマイクロ回線やIP回線にて伝送すると遅延が発生します。

STATUS (STATUS) > **F.2** (SDI ANALYSIS) > **F.3** (AV PHASE)にて位相測定が行えます。

注意: **STATUS** (STATUS)を押してSTATUS画面が表示されない場合は、**STATUS** を2回押してから

F.2 (SDI ANALYSIS)を押して **F.3** (AV PHASE)を押して下さい。

F.1 (SCALE MAX)にてスケールマックス値の設定変更が行えます。

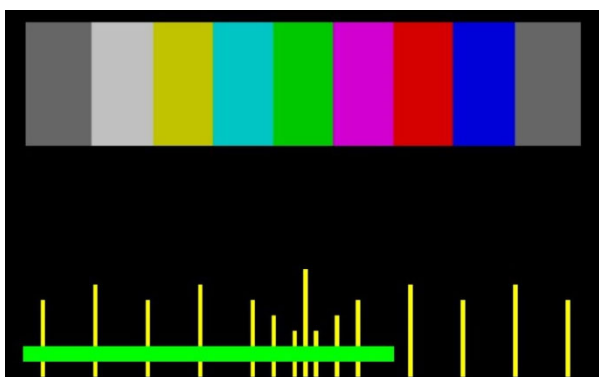
3～4サイクルで測定が行えます。リフレッシュをおこなう際には **F.2** (REFRESH)にて行えます。

他のリップシンクパターン時に **F.6** (AV PHASE SETUP)にて設定が行えます。

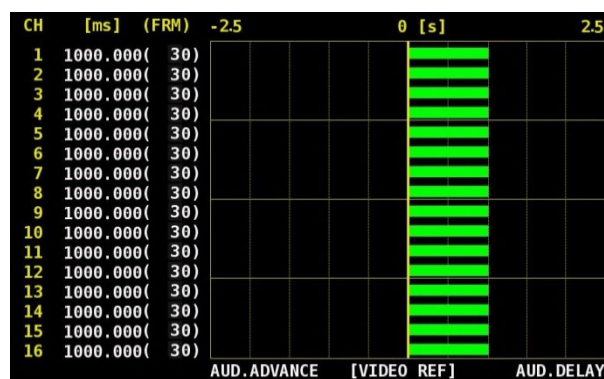
この設定をパターンのタイミングを見ながら設定を行いたい場合は **PIC** (PICTURE) > **F.5** (LINE SELECT) > **F.3** (AV PHASE) にて行えます。

弊社のリップシンクパターンの場合は設定の必要はありません。

注意: AV PHASE測定は、LV5300-SER20、LV5350-SER20、LV7300-SER20の実装が必要です。



リップシンクパターン



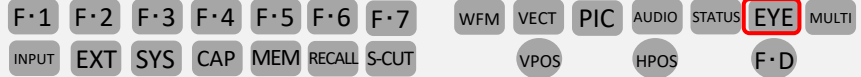
AV PHASE 測定画面

Leader

LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル

EYE

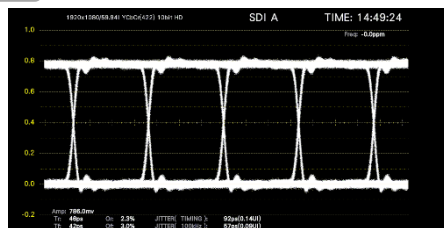
(LV5300、LV7300-SER02)



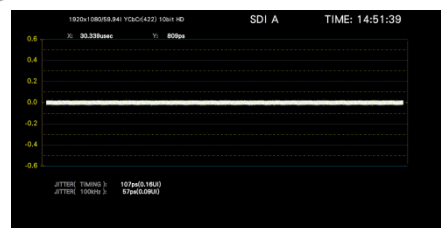
EYEとJITTERの切替

EYE (EYE) > **F.1** (EYE/JITTER INTEN/CONFIG) > **F.1** (EYE/JITTER MODE) でEYEとJITTER表示切替ができます。

注意: **F.1** が (EYE/JITTER INTEN/CONFIG) で無いときは **EYE** (EYE) を2度押して下さい。



EYE表示



JITTER表示

(注意: LV5300、LV7300-SER02でのEYE機能表示はSDI INPUT1のみの対応になっております。SDI INPUT2は非対応です。)

フィルタ切替

EYE (EYE) > **F.2** (GAIN/FILTER/SWEEP) > **F.3** (FILTER)

注意: **F.2** が (GAIN/FILTER/SWEEP) で無いときは **EYE** (EYE) を2度押して下さい。

- 100kHz : 100kHz 以上のジッタ測定
- 1kHz : 1kHz 以上のジッタ測定
- 100Hz : 100Hz 以上のジッタ測定
- 10Hz : 10Hz 以上のジッタ測定
- TIMING : タイミングジッタを測定します。10Hz 以上のジッタ測定
- ALIGNMENT : アライメントジッタを測定します。入力信号SD以外100kHz以上、SDは1kHz 以上のジッタ測定

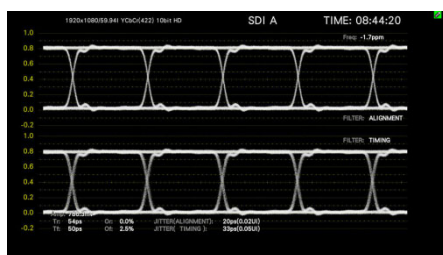
選択されたフィルターは自動ジッター測定の上部の値とEYE表示とJITTER表示に適用されます。

(EYE および JITTER 同時表示については「レイアウト変更(概要)－応用例－」を参照してください。)

SINGLE表示とDUAL表示切替

EYE (EYE) > **F.7** (DISPLAY MODE) でDUALとSINGLEの表示切替ができます。

注意: **F.7** が (DISPLAY MODE) で無いときは **EYE** (EYE) を2度押して下さい。



DUAL表示

上部のジッター表示は選択されたフィルターを適用した表示、下部はTIMINGフィルター適用の表示です。 30

Leader

LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル

レイアウト呼出 (SINGLE設定)



レイアウトシステム設定

・DISPLAY設定: INPUT (INPUT) > F.7 (DISPLAY) をSINGLEに設定します。

* ユーザーレイアウトはレイアウトオプション (LV5300-SER26, LV5350-SER26, LV7300-SER26) を実装することでマウスにより自由に変更ができます。
レイアウト変更P33~参照

注意: この設定で呼び出されるレイアウトは、出荷時の設定になります。個々にレイアウトの設定変更されている場合は該当するレイアウトが呼び出されます。

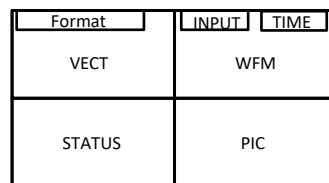
レイアウトの呼出方法

下記の手順で呼び出します。

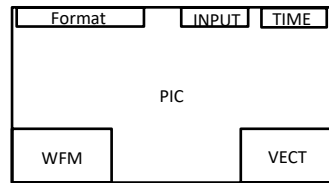
呼出方法

MULTI を押して F.1 にてLAYOUT
USER 1~6 が選択ができます。

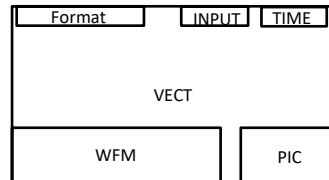
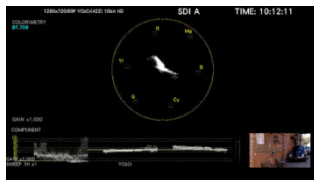
USER 1



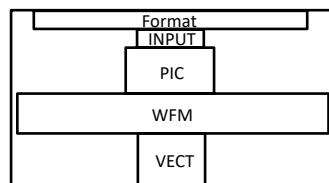
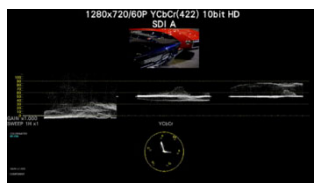
USER 2



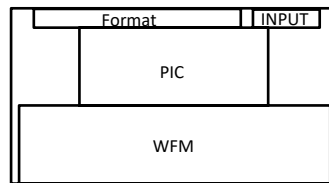
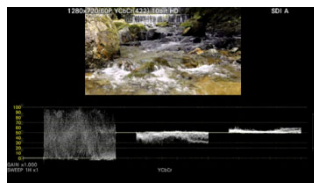
USER 3



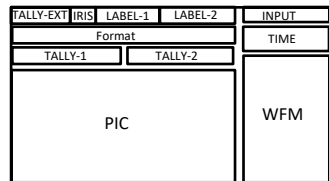
USER 4



USER 5



USER 6



Leader

LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル

レイアウト呼出 (SIMUL設定)



レイアウトシステム設定

- DISPLAY設定: **INPUT** (INPUT) > **F.7** (DISPLAY) をSIMULに設定します。
- Sytem設定がSD/HD/3G-A/3G-B-DLで、**INPUT** > **F.7** (DISPLAY) SIMUL設定になっている時、**INPUT** > **F.1**、**F.2** (A、B) のON/OFF設定でレイアウトが変わります。

レイアウトの呼出

- 呼出方法 **MULTI** を押して **F.1** にてLAYOUT USER 1～6が表示されて選択ができます。

表示例
(A,B)

1入力(A)

2入力(A,B)

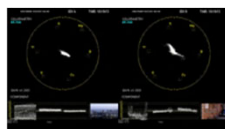
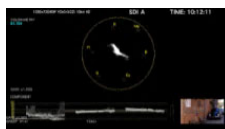
USER 1



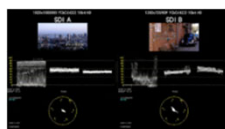
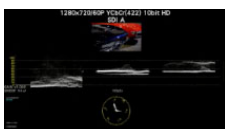
USER 2



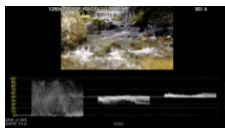
USER 3



USER 4



USER 5



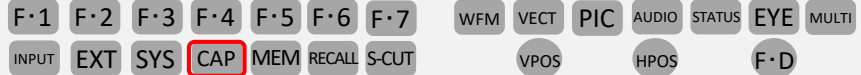
USER 6



Leader

LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル

スクリーンキャプチャー



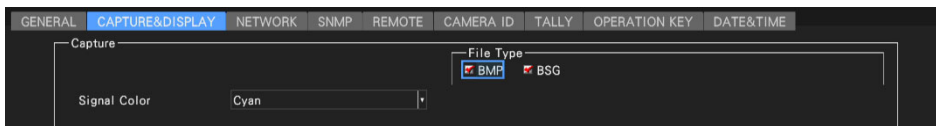
1. スクリーンキャプチャー設定

SYS (SYSTEM)> F.2 (SYSTEM SETUP)にて F.3 (NEXT TAB)で表示タブ **CAPTURE&DISPLAY** に変更します。

F.D (FUNCTION DIAL)を使用して、USBメモリーへ保存する必要なファイルをFILE TYPEのBMP、BSGから選択してファイル形式にチェックを入れ、設定の最後に F.1 (COMPLETE)を押して確定します。

BMP : 保存したデータは、PCで確認できます。

BSG : 保存したデータは、LV5300、LV5350、LV7300本体で読込表示できます。



2. スクリーンキャプチャーの実行

- 次にスクリーンキャプチャーをしたい画面を表示させます。
- CAP (CAPTURE)を押します。(CAP (CAPTURE)を押した時点で表示画面が内部メモリにキャプチャーされます。)
- F.3 (DISPLAY)で下記の選択ができます。
 - REAL: 現在の入力信号を表示します。
 - HOLD: キャプチャーデータを表示します。ビデオ信号波形、ベクトル波形、アイパターン波形はシアンで表示します
 - BOTH: 現在の入力信号とキャプチャーデータの輝度を半分にして、重ねて表示します。

3. USBメモリーへの保存

- USBメモリーをパネル面に実装し、画面右上に が表示されUSBメモリーが認識されたことを確認します。
- F.6 (USB MEMORY)> F.3 (STORE)を押してUSBメモリーの右記のフォルダに保存します。

USBメモリー

- LV5300_USER、LV5350_USERまたは、LV7600_USER
 - BMP
 - yyyyymmddhhmmss.bmp
 - yyyyymmddhhmmss.bsg

4. USBメモリーのキャプチャーデータ表示

- USBメモリーにBSG形式で保存したキャプチャーデータは、本体に戻して表示し、現在の入力信号と重ねて表示したりすることができます。
- 本体にUSBメモリーを接続し、CAP (CAPTURE)> F.6 (USB MEMORY)> F.5 (RECALL)を押します。
- ファイルリスト画面が表示されるので F.D (FUNCTION DIAL)を回して表示するBSG形式のファイルを選択し、F.1 (RECALL)を押すとキャプチャー画面が表示されます。

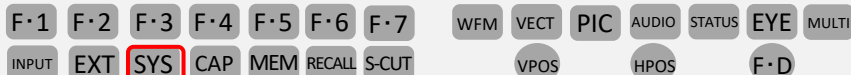
No.	Filename	Date/Time	Size(Byte)
1	110mss.bmp	20180712 08:36:58	6,220,864
2	20180712 08:37:00	20180712 08:37:00	6,220,864
3	30180712 08:37:02	20180712 08:37:02	6,220,864
4	40180712 08:37:04	20180712 08:37:04	6,220,864
5	50180712 08:37:06	20180712 08:37:06	6,220,864
6	60180712 08:37:08	20180712 08:37:08	6,220,864
7	70180712 08:37:10	20180712 08:37:10	6,220,864
8	80180712 08:37:12	20180712 08:37:12	6,220,864
9	90180712 08:37:14	20180712 08:37:14	6,220,864
10	10180712 08:37:16	20180712 08:37:16	6,220,864
11	11180712 08:37:18	20180712 08:37:18	6,220,864
12	12180712 08:37:20	20180712 08:37:20	6,220,864
13	13180712 08:37:22	20180712 08:37:22	6,220,864
14	14180712 08:37:24	20180712 08:37:24	6,220,864
15	15180712 08:37:26	20180712 08:37:26	6,220,864
16	16180712 08:37:28	20180712 08:37:28	6,220,864
17	17180712 08:37:30	20180712 08:37:30	6,220,864
18	18180712 08:37:32	20180712 08:37:32	6,220,864
19	19180712 08:37:34	20180712 08:37:34	6,220,864
20	20180712 08:37:36	20180712 08:37:36	6,220,864
21	21180712 08:37:38	20180712 08:37:38	6,220,864
22	22180712 08:37:40	20180712 08:37:40	6,220,864
23	23180712 08:37:42	20180712 08:37:42	6,220,864
24	24180712 08:37:44	20180712 08:37:44	6,220,864
25	25180712 08:37:46	20180712 08:37:46	6,220,864

Leader

LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル

信号出力

(LV5300-SER24、LV5350-SER24、LV7300-SER24)

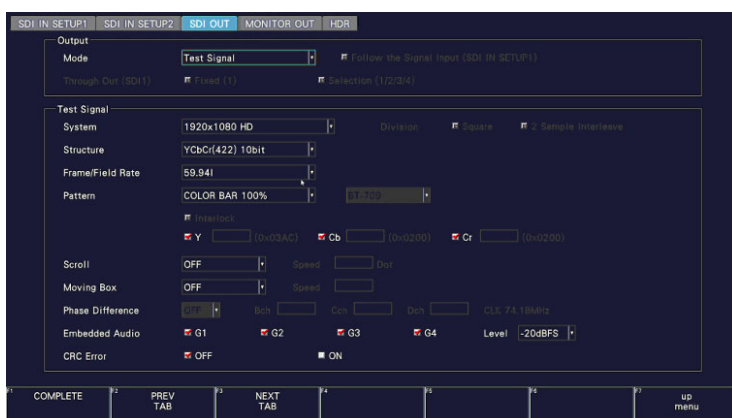


SYS (SYSTEM) > **F.1** (SIGNAL IN OUT) にて **F.3** (NEXT TAB) で **SDI OUT** を選択します。

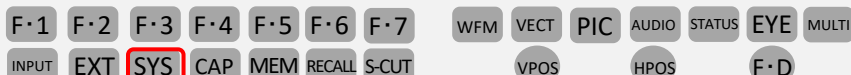
Mode (SDI2) を Test Signal に **F.D** (FACTION DIAL) で選択します。

さらに、Test Signal の項目を出力したい信号に合わせて **F.D** を使用して設定を行います。

設定の最後に **F.1** (COMPLETE) を押して確定します。



イニシャライズ設定



SYS > **F.7** (INITIALIZE)

- **F.1** (PARAM INIT YES) : 下記の設定以外が初期化されます。
 - ・ネットワークの設定 (NETWORKタブ)
 - ・リモートの設定 (REMOTEタブ)
 - ・カメラIDの設定 (Local ID Settingを除く) (CAMERA IDタブ)
 - ・日時の設定 (DATE&TIMEタブ)
 - ・プリセットの内容
 - ・測定画面のレイアウト設定
- **F.2** (LAYOUT INIT YES) : レイアウト設定のみ初期化されます。
- **F.3** (OPETATE INIT YES) : オペレーションキーの設定のみ初期化されます。
- **F.4** (ALL INIT YES) : PARAM INIT と LAYOUT INIT を同時に行います。

工場出荷時設定 : PARAM INIT (日時設定を除く) を含む初期化を行います。

VPOS と **HPOS** を押しながら電源を入れ、**F.3** (SRAM/FLASH INIT YES) で実行します。

バージョン確認方法 : **SYS** > **F.3** (SYSTEM INFO) で確認ができます。

Leader

LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル

プリセット 登録／削除



プリセット機能は、パネル設定を60点まで登録ができる機能です。

イーサネット、リモート、カメラID、日時設定を除いたすべての項目が登録されます。

登録／削除設定は **MEM** を押します。

F.D で登録／削除するプリセットナンバーを選択します。

登録は左下図の登録画面上の **F.2** (STORE) を押します。(削除は **F.3** (DELETE) で行います。)

登録時にファイル名は **F.1** (COMENT INPUT) を押し、右下図のコメント入力画面で入力します。

入力方法は下記の内容のファンクションキーと **F.D** または前面パネルに接続したUSBマウスで行います。

F.1 (CLEAR ALL) :すべての文字列を削除します。

F.2 (DELETE) :カーソル上の文字を削除します。

F.3 (INSERT) :カーソルの位置に選択した文字を挿入します。

F.4 (<=) :カーソルを左に移動します。

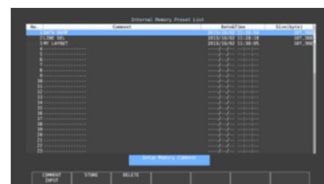
F.5 (=>) :カーソルを右に移動します。

F.6 (CHAR SET) :文字を入力します。

F.D :回して文字を選択、押して文字を入力します。USBマウスの場合はポインターを入力したい文字に合わせて左クリックで入力します。

次に **F.7** (up menu) を押し、**F.D** で登録するプリセット番号を選択します。

最後に **F.2** (STORE) を押して登録ができます。

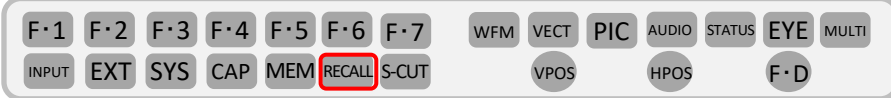


プリセット登録画面



プリセットコメント入力画面

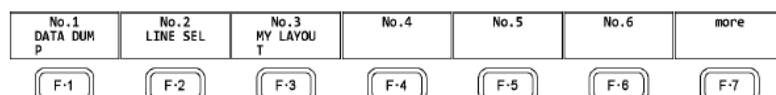
プリセット 呼出



プリセット呼出はプリセット登録したプリセットナンバーから呼び出します。

RECALL を押し、ファンクションメニュー上にプリセットナンバーを表示させます。

No.7～60を表示させたい場合は、**F.7** または **F.D** で表示を変更し、該当するプリセットナンバーをファンクションキーで呼び出します。



Leader

LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル (レイアウト編)

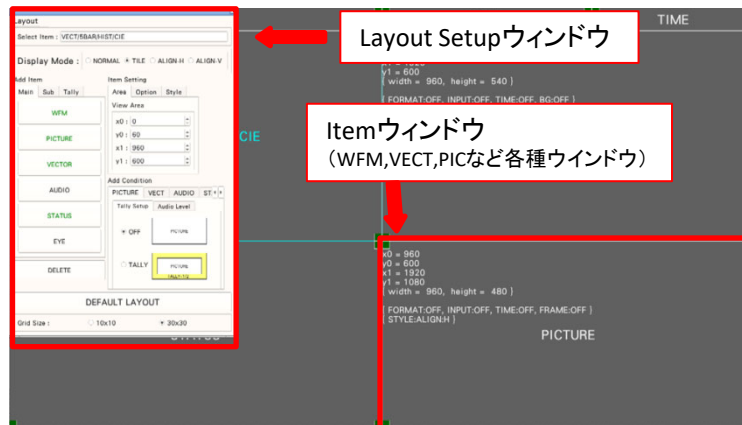
レイアウト変更 — 基本 — (LV5300-SER26、LV5350-SER26、LV7300-SER26)

WFM、VECT、PIC、AUDIO、STATUS、EYE の測定画面(各1 種類)、およびMULTIの測定画面(USER1～6)は、自由にレイアウトの変更ができます。

前面パネルのUSB 端子にマウスを接続して操作・設定を行います。

レイアウト設定画面の表示

WFM、VECT、PIC、MULTI(USER1)などのレイアウト変更したい画面を表示させます。
画面上でマウスを右クリックし、表示されるウインドウのLAYOUTを選択します。



レイアウト手順

ここでは例として、基本例と応用例の3点を紹介します。

基本例 P.37

MULTI(USER1)のレイアウトを変更する手順(オーディオアイテムの追加など)

- ① レイアウト画面の表示
- ② 画面右上のTIME からDATE へのアイテム変更
- ③ ベクトル波形をピクチャーに重ねる
- ④ オーディオのアイテム追加
- ⑤ STATUSアイテムにTIME を追加
- ⑥ 変更の確定

応用例 P.39

MULTI(USER1)のレイアウトを変更する手順(VECTとCIEチャートを同時表示)

- ① レイアウト画面の表示
- ② 画面上のアイテムをすべて削除
- ③ VECTアイテムを追加
- ④ CIEアイテムを追加
- ⑤ 変更の確定

応用例 P.41

EYEのレイアウトを変更する手順(EYE測定とJitter測定の同時表示)

- ① レイアウト画面の表示
- ② EYE/JITTER表示の削除
- ③ EYEおよびJitterアイテムの選択／追加
- ④ Format、Input、Timeアイテム表示
- ⑤ 変更の確定

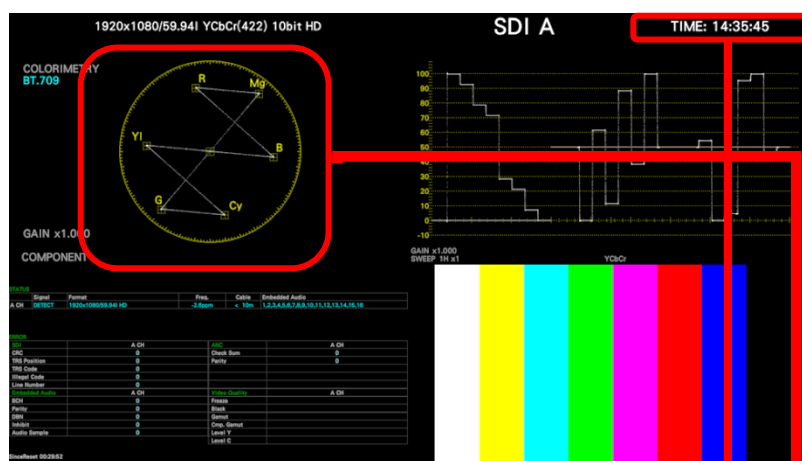
Leader

LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル (レイアウト編)

レイアウト変更(概要)－基本例－ (LV5300-SER26、LV5350-SER26、LV7300-SER26)

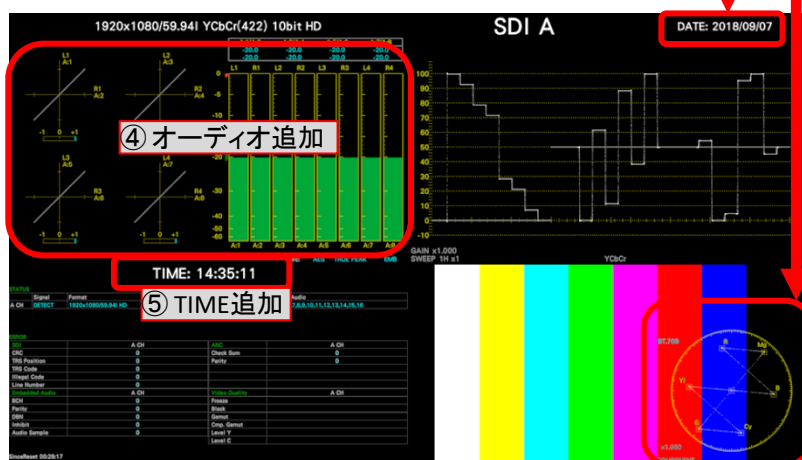
(基本例) MULTI(USER1)のレイアウトを変更する手順(オーディオアイテムの追加など)

- ① レイアウト画面の表示
- ② 画面右上のTIME からDATE へのアイテム変更
- ③ ベクトル波形をピクチャーに重ねる
- ④ オーディオのアイテム追加
- ⑤ STATUSアイテムにTIME を追加
- ⑥ 変更の確定



変更前

③ ベクトルの移動



変更後

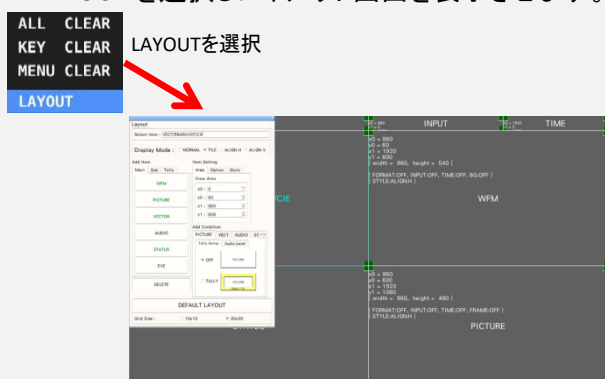
Leader

LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル (レイアウト編)

レイアウト変更(手順) — 基本例 — (LV5300-SER26、LV5350-SER26、LV7300-SER26)

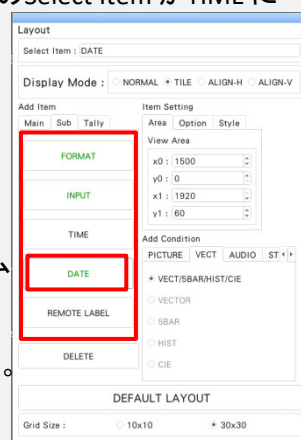
① レイアウト画面の表示

- MULTI を押し、F・1 (LAYOUT SELECT) をUSER1にします。
(マルチ表示には、USER 1～USER 6の6個のレイアウトがあります。)
- 測定画面上で右クリックで表示したウインドウのLAYOUTを選択しレイアウト画面を表示させます。



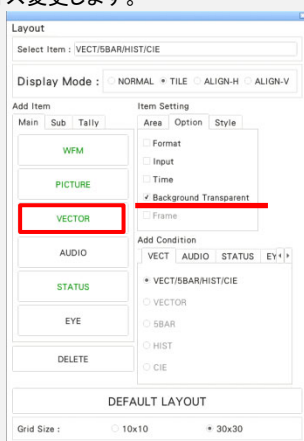
② 画面右上のTIMEをDATEに変更

- 画面右上のTIME アイテムをクリック選択します。
(TIME アイテム枠の色と文字が水色に変わり、Layout SetupウインドウのSelect Item がTIME になります。)
- Layout SetupウインドウのDELETEキーでTIME アイテムを削除します。
- Add ItemのSubタブ内のDATEアイテムをクリック選択します。
- 表示されたDATEアイテムをサイズ変更を行いながら、ドラッグして表示させたい場所に移動させます。



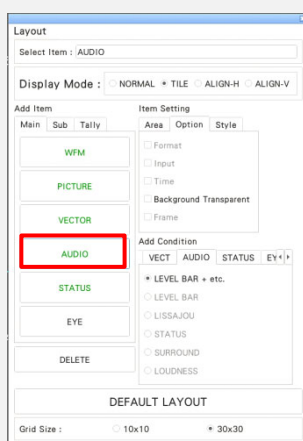
③ ベクトル波形をピクチャーに重ねる

- Add ItemのMainタブ内のVECT アイテムを選択し、Item SettingのOptionタブ内のBackground Transparentをクリックします。
- VECT アイテムをピクチャーの上に配置・サイズ変更します。



④ オーディオの追加

- Main タブのAUDIO をクリックし、AUDIO アイテムをVECT アイテムがあった場所に配置します。



⑤ ステータスにTIME を追加

- STATUS アイテムをクリックし、Option タブのTime をクリックします。
(OptionタブのTimeは、表示位置・サイズ変更はできません。)



⑥ 変更の確定

レイアウト画面上で右クリックし、SAVE をクリックします。

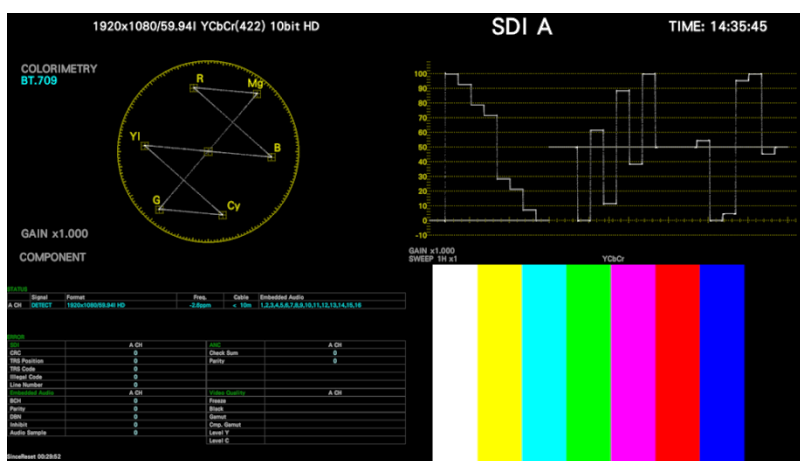
Leader

LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル (レイアウト編)

レイアウト変更(概要)－応用例1－ (LV5300-SER22およびLV5300-SER26、LV5350-SER22 およびLV5350-SER26、LV7300-SER22およびLV7300-SER26)

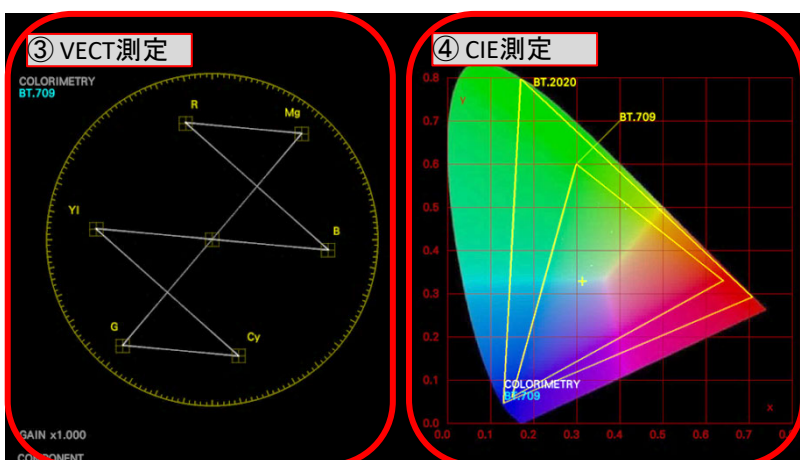
(基本例) MULTI(USER1)のレイアウトを変更する手順(VECTとCIEチャートを同時表示)

- ① レイアウト画面の表示
- ② 画面上のアイテムをすべて削除
- ③ VECTアイテムを追加
- ④ CIEアイテムを追加
- ⑤ 変更の確定



変更前

MULTI (USER1)アイテムをすべて削除してからVECTとCIEアイテムを追加します。



変更後

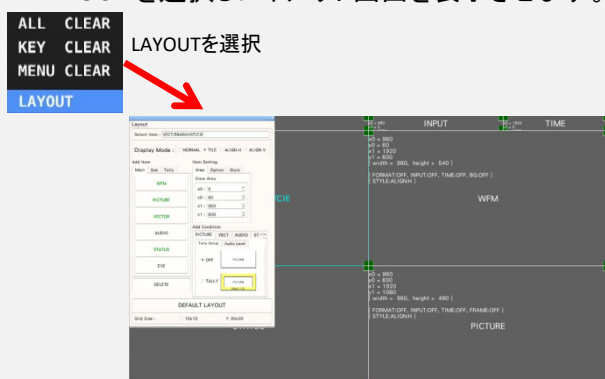
Leader

LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル (レイアウト編)

レイアウト変更(手順) — 応用例1 — (LV5300-SER22およびLV5300-SER26、LV5350-SER22
およびLV5350-SER26、LV7300-SER22およびLV7300-SER26)

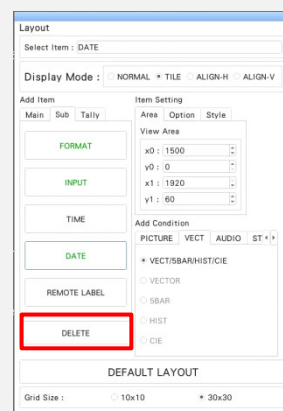
① レイアウト画面の表示

- MULTI を押し、F・1 (LAYOUT SELECT) をUSER 1にします。
(マルチ表示には、USER 1～USER 6の6個のレイアウトがあります。)
- 測定画面上で右クリックで表示したウインドウのLAYOUTを選択しレイアウト画面を表示させます。



② 画面上のアイテムをすべて削除

- 画面左下のDELETE アイテムをクリックします。
クリックする毎に表示されているアイテムが消えます。数回クリックして表示しているアイテムをすべて削除します。



③ VECTアイテムを追加。

- Add ConditionのVECTタブ上のVECTを選択します。
- Add ItemのMainタブ内のVECT アイテムをクリックします。
- VECT アイテムをピクチャーの上に配置・サイズ変更します。



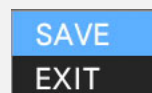
④ CIEアイテムを追加。

- Add ConditionのVECTタブ上のCIEを選択します。
- Add ItemのMainタブ内のVECT アイテムをクリックします。
- CIEアイテムをピクチャーの上に配置・サイズ変更します。



⑤ 変更の確定

- レイアウト画面上で右クリックし、SAVE をクリックします。



補足：カラートライアングル設定方法

- VECTキーを押します。
- 「F1」VECT INTEN/CONFIGを押す。
- 「F1」VECT DISPLAYをCIE DIAGRAM に設定する。
- 「F7」Jup menuを押し、「F2」CIE DIAGRAM SCALEを押します。
- 「F2」TRIANGLE1・「F3」TRIANGLE2でOFF/ON設定ができます。

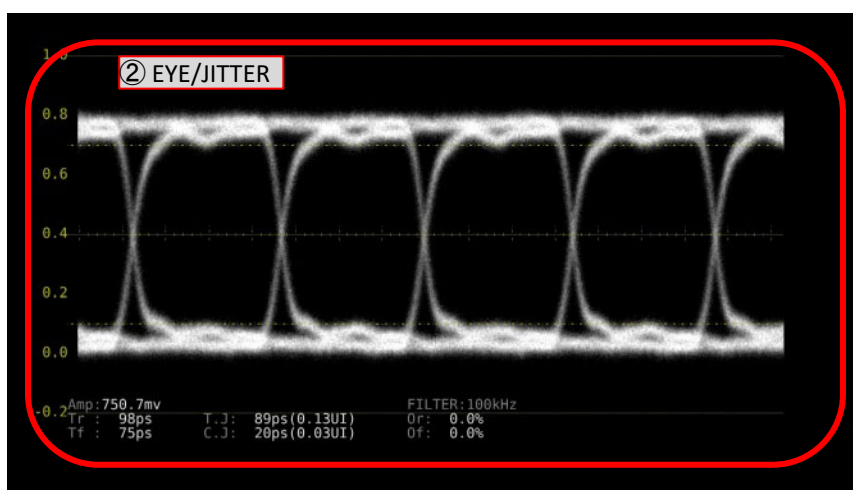
Leader

LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル (レイアウト編)

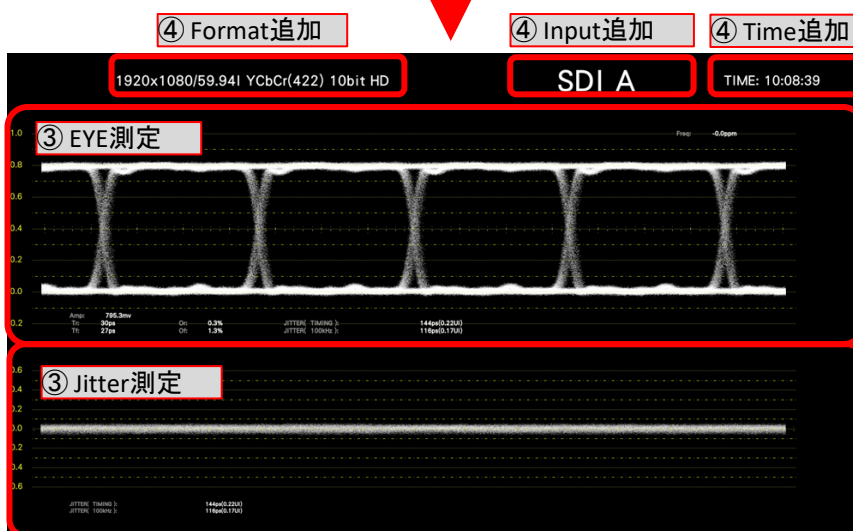
レイアウト変更(概要)－応用例2－ (LV5300およびLV5300-SER26、 LV7300-SER02およびLV7300-SER26)

(応用例) EYEのレイアウトを変更する手順(EYE測定とJitter測定の同時表示)

- ① レイアウト画面の表示
- ② EYE/JITTER表示の削除
- ③ EYEおよびJitterアイテムの選択／追加
- ④ Format、Input、Timeアイテム表示
- ⑤ 変更の確定



変更前



変更後

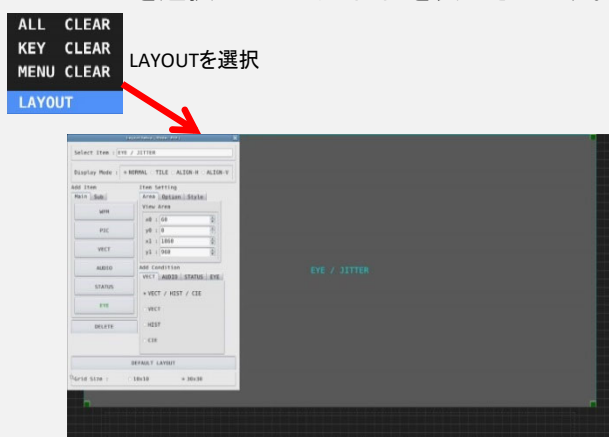
Leader

LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル (レイアウト編)

レイアウト変更(手順) — 応用例2 — (LV5300およびLV5300-SER26、 LV7300-SER02およびV7300-SER26)

① レイアウト画面の表示

- EYE** を押してEYE表示画面を表示します。
- 測定画面上で右クリックで表示したウインドウの **LAYOUT** を選択しレイアウト画面を表示させます。



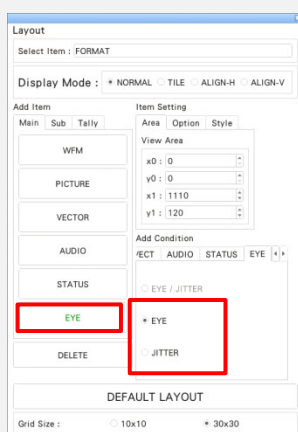
② EYE/JITTERアイテム削除

- 画面上のEYE/JITTERアイテムをクリック選択します。
(EYE/JITTERアイテム枠の色と文字が水色に変わり、Layout SetupウインドウのSelect Item がEYE/JITTER になります。)
- Layout Setupウインドウの **DELETE** キーでEYE/JITTER アイテムを削除します。



③ EYEおよびJITTERアイテムの選択／追加

- Add ConditionのEYEタブ内のEYEを選択し、Add ItemのMainタブ内のEYEを押すことでEYEアイテムが追加されます。
同様にJITTERアイテムも追加させます。
- 各アイテムサイズと位置を変更します。



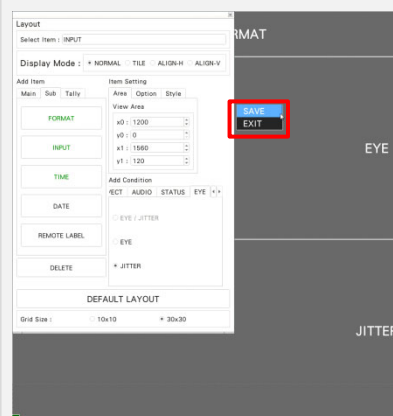
④ Format、Input、Timeアイテム表示

- Add ItemのSubタブ上のFORMAT、INPUT、TIMEでアイテムを追加します。
- 各アイテムサイズと位置変更します。



⑤ 変更の確定

- レイアウト画面上で右クリックし、**SAVE** をクリックします。



補足: デフォルト設定方法

Layout Setupウインドウの設定上の下部の **DEFAULT LAYOUT** を押すことでデフォルト設定に戻ります。

Leader

LV5600／LV7600 クイックマニュアル

オペレーションキー

オペレーションキーはビデオエンジニアが、良く使用する波形のフォームやゲインもしくは、ベクトルのゲイン等をマウスまたはタッチパネルを使用してソフトキー（アイコン）にて簡単に変更できます。

・オペレーションキー呼び出し設定

SYS > F・2 (SYSTEM SETUP)の **GENERAL** 上で設定ができます。

On-screen MenuのAuto OffをOffにします。

Operation KeyをONにしてください。

タッチパネルを使用する場合はTouch PanelのEnableを選択してください。

F・1 (COMPLETE)で設定を確定させます。

・オペレーションキーの操作

WFM (WAVEFORM)を押して波形を表示させます。

画面の右下にオペレーションキーが表示されているのでマウスもしくはタッチパネルにてクリックします。



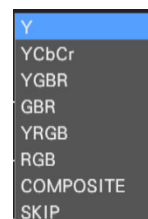
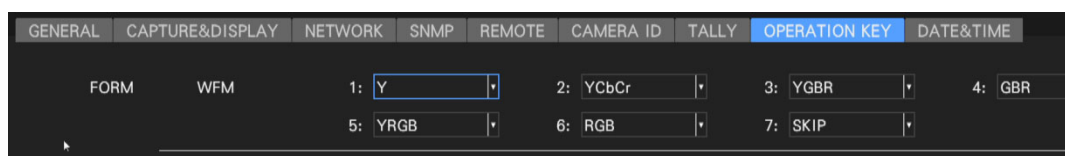
FORM:	波形とベクトルの形式変更
OVLAY:	波形オーバーレイの変更
FILTER:	フィルター波形の変更
GAIN:	波形とベクトルのゲイン変更
GAIN-MAG:	波形とベクトルの倍率変更
SWEEP:	波形の掃引変更
SWEEP-MAG:	波形の掃引拡張
SHORT CUT:	カーソルやキャプチャーなどのさまざまな機能割り当て

・オペレーションキー呼び出し設定

SYS > F・2 (SYSTEM SETUP)にて **F・3** (NEXT TAB)で表示タブを **OPERATION KEY** に変更します。

各項目を変更して **F・1** (COMPLETE)を押します。

項目をSKIPにすればその項目はスキップされます。



・オペレーションキーの操作例

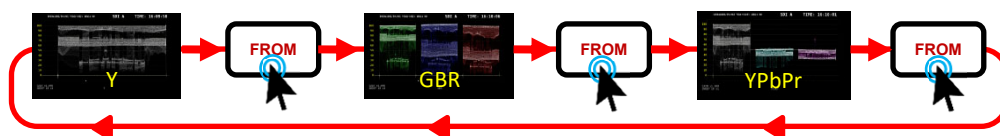
例: FROM WFM

No.1:Y

No.2:GBR

No.3:YPbPr

No.4～7 setup SKIP



Leader

LV5300/LV5350/LV7300 クイックマニュアル

リーダー電子株式会社

本社・横浜市港北区綱島東 2-6-33 TEL (045) 541-2122 (代表)

●関西営業所 (06) 6192-1152

URL : <https://www.leader.co.jp> メール: sales@leader.co.jp

※製品仕様は予告無く変更することがございます。